



犬山市 木曽川河畔空間整備 基本構想 (素案 プラン①～③)

2023(令和5)年 8月



目次

第1章 はじめに

(1) 目的..... 1

(2) 対象範囲..... 1

(3) 河畔空間の現状と課題..... 2

(4) 上位関連計画の整理..... 4

(5) 基本構想の構成..... 6

第2章 河畔空間の整備に向けた課題と条件等の整理

(1) 河畔空間の現況図..... 7

(2) 河畔空間の課題..... 8

(3) 整備に向けた条件等の整理 【可能性調査】 9

第3章 河畔空間の整備に向けた検討

(1) 地域住民との対話の場（河畔deカタリーヴァ）の開催..... 10

(2) 実証事業の実施..... 13

第4章 河畔空間の整備のテーマと求められる機能

(1) 検討の整理.....21

(2) 河畔空間整備の4つのテーマ.....23

(3) 河畔空間整備で備えるべき機能・仕掛け.....25

第5章 河畔空間の整構構想

(1) 整備の考え方❶ 河畔空間構造の検討.....29

(2) 整備の考え方❷ 河畔空間の設えの検討.....36

(3) モデルプランによる比較検討.....37

第6章 今後の整備に向けて

(1) 施工方法の検討・決定.....42

(2) 実証事業の継続的な実施.....42

(3) 継続的な住民参加のプログラム実施.....43

(4) 河畔空間の管理について.....44

(5) 整備による効果等について.....44

(6) かわまちづくり計画の策定について.....45

(7) ロードマップ.....48

第1章 はじめに

(1) 目的

犬山市は、国宝犬山城とその城下町、日本八景の一つである名勝木曾川、テーマパーク、神社仏閣、古墳など多くの観光資源を有する東海地方有数の観光都市です。

これら豊富な観光資源を活かすとともに、名古屋鉄道株式会社と連携した大規模宣伝活動や歴史的建造物の復元・修景や電線類地中化・道路美装化、空き店舗活用事業などの施策の成果により、観光地としての知名度向上や観光客数の増加を果たしています。

一方、犬山城下町を中心に多数の観光客が訪問することによる市民への負担や生活への支障が顕在化する、観光の恩恵が市域全体に広がっていない、日帰り客が中心で消費行動が弱く経済への貢献が十分でないなど、新たな課題も生まれています。

こうした状況の中、2020(令和2)年には新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延し、本市においても観光客数が減少するなど、大きな影響を受けました。新型コロナウイルス感染症との共存も模索しながら、新しい動きも始まっており、市内においては長らく遊休地であった犬山駅西口に新たなホテル(ホテルμスタイル犬山エクスペリエンス)が開業、名鉄犬山ホテルの跡地に新たな外資系ホテル(ホテルインディゴ犬山有楽苑)が誕生するなどの動きがみられます。

これまでの取組みによる成果を踏まえつつ、観光に関する課題を市、市民、及び関係者が共有し、市、関係団体、事業者、そして何より市民が一緒になって力を合わせることで、犬山観光の更なる飛躍と観光分野の産業としての成長、そして持続可能な観光まちづくりを実現することを目的に、令和4年3月に犬山市観光戦略を策定しました。

本基本構想は、観光戦略で定めた重点プロジェクト「6-1 遊園ルネサンス」を展開するためにチャレンジする施策「憩いの場、滞在の場としての内田地区木曾川河畔整備(社会実験から実装へ)」を推進するにあたり、2022(令和4)年3月に名鉄犬山ホテル跡地に新たなホテル(ホテルインディゴ犬山有楽苑)が開業したことを契機として、内田地区の河畔空間を高質化するとともに、古くて新しい観光スポットとして、そして市民にとっても憩いの場となることを目指し、地域住民や観光事業者等と調和を図りながら魅力ある河畔空間の整備を目指すものです。

(2) 対象範囲

本整備構想は、下図に示す全長約460mにわたる区間の遊歩道を中心とした河畔空間を対象とします。



第1章 はじめに

(3) 河畔空間の現状と課題

■ 宿泊者数（観光客数）の減少と土地利用の変化

木曽川河畔内田地区には、ホテルインディゴ犬山有楽苑の場所に、かつてレジャー施設である「犬山遊園地」があり、多くの観光客が訪れていました。また河畔は旅館街としても賑わいをみせていました。木曽川は日本八景に選出されるなど、風光明媚な景観は多くの観光客と市民にとって憩いの空間となっていました。

その後、長い年月を経て、モータリゼーションの発展や道路・交通網の整備により、人々の観光動向も変化しています。犬山観光が日帰り客中心の観光地となるに従い、内田地区は旅館数の減少や住宅が建設されるなど、かつての状況から変化しています。

川沿いの遊歩道については、整備から長い年月が経過し、舗装の劣化も見られるようになっており、遊歩道内の桜の木も老朽化が進んでいる現状にあります。

河畔空間の様子の変化

昔



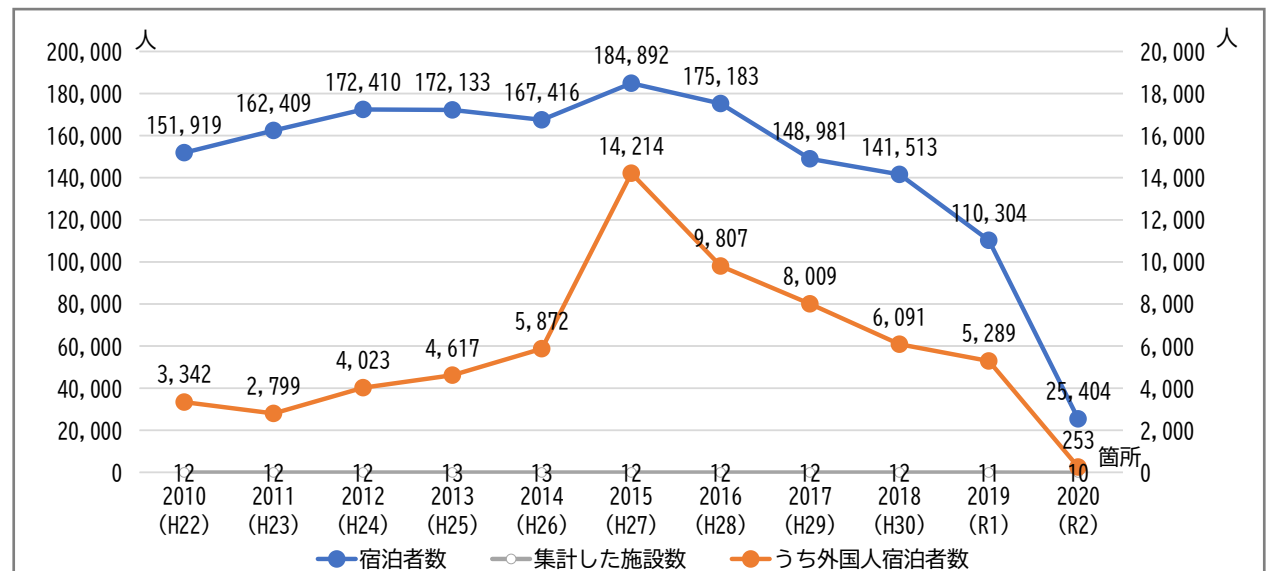
昭和40年頃

現在



50年程前は、木曽川沿いにある観光道路となっており、土産物店、旅館が軒を連ね、活気ある観光地となっていたが、現在は、観光客の姿は少なく、舗装や樹木の老朽化が見受けられる。

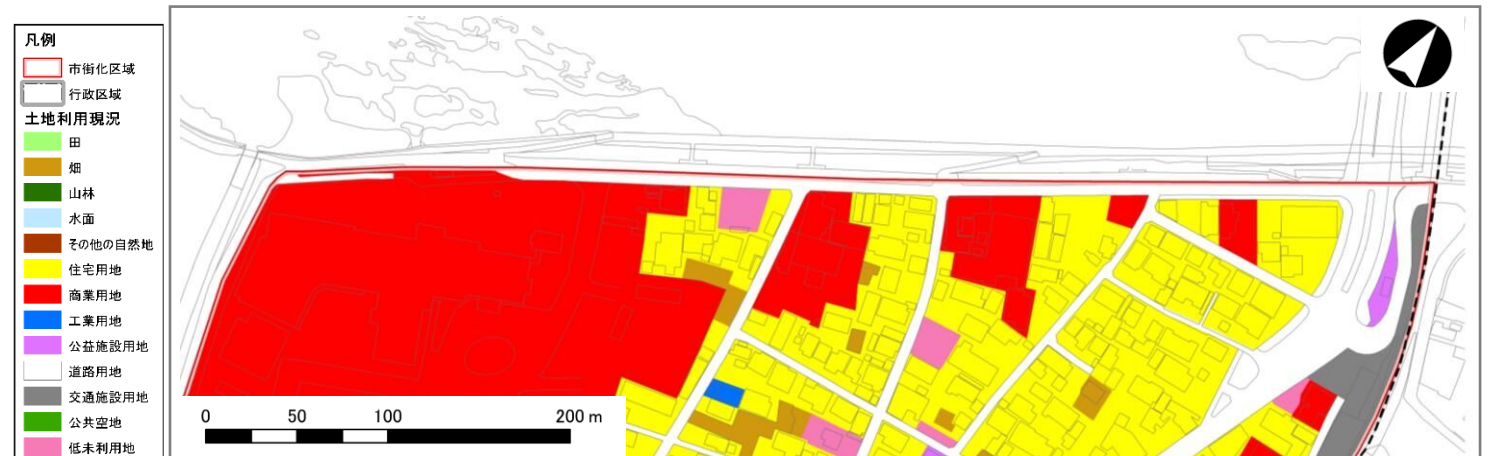
犬山市内宿泊者数の推移



本市の宿泊者数は、過去10年間の推移をみると、2015(平成27)年の184,892人をピークに減少傾向にあり、新型コロナウイルス感染症が拡大する前の2019(令和元)年110,304人、うち外国人宿泊者数は5,289人であった。

出典：犬山市観光戦略(令和4年3月)

現在の土地利用状況



第1章 はじめに

■ まちなかの回遊性の欠如

『犬山城下町マップ』を見ると、城下町のうち、特に本町通りに店舗や観光関係施設が集中的に分布しています。一方、犬山遊園駅周辺、木曽川河畔(内田地区)、犬山駅前通り及び城下町の本町通り以外の道筋は店舗などが点在しているのみであり、回遊性が高まりづらい状況であることがわかります。



※ マップに記載の店舗は犬山キャンペーン及び犬山市観光協会会員店舗に限られますので、実際の店舗分布状況とは若干異なります。

出典: 犬山城下町マップ(犬山集中大規模観光宣伝協議会作成: 令和4年6月時点)

■ 河畔空間における魅力あるコンテンツ

木曽川遊歩道では、1300年の伝統を誇る木曽川鵜飼をはじめ、毎週日曜日に「犬山朝市」が開催されています。犬山朝市では、地元野菜に加え、手づくりこんにゃくやソーセージ、パンやスープなどバラエティ豊かな約40店舗が並んでいます。

また、河川空間活性化の実証実験として開催されるロングラン花火に合わせて、「宵のいぬやMARCHE」(グルメイベント)が開催されています。これら河畔空間では魅力的なコンテンツがあるものの、各々が個別に実施している状況であり、今後は河畔全体での一体的な取組みに繋げていく必要があります。



木曽川鵜飼



犬山朝市



ロングラン花火



宵のいぬやMARCHEの様子

出典: 犬山市観光協会HP

第1章 はじめに

(4) 上位関連計画の整理

市の最上位計画である「第6次犬山市総合計画」や、都市計画の基本方針である「犬山市都市計画マスタープラン」においても、木曽川可畔はまちの発展のため重要なエリアとしています。

■第6次犬山市総合計画（2023（令和5）年3月策定）

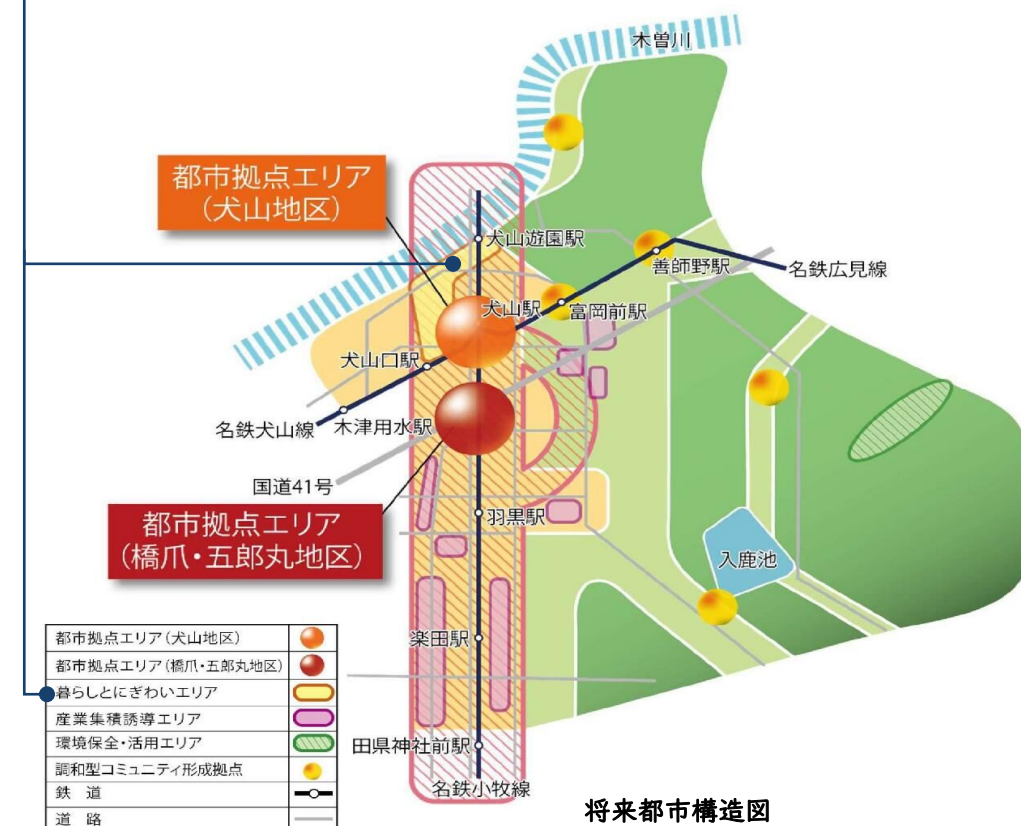
● 将来の都市構造（土地利用）

基本方針

本市の特徴的な地域の良い歴史的資産や自然環境との調和（共存・共生）を図りながら、豊かな市民生活の実現や産業経済活動の振興のため、住・農・商・工のバランスの取れた都市の形成を図ります。

■暮らしとにぎわいエリア

歴史、文化、自然及び人の暮らしが共存している地域特性を活かし、多くの来訪者でにぎわうエリアとするため、犬山城や城下町、木曽川などの地域資源を有効に活用したまちづくりを進め、人が行き来する活気ある空間や風光明媚な環境を活かした憩いの空間としての土地利用を進めつつも、エリア内の住民の快適な生活につながる土地利用を進めます。



将来都市構造図

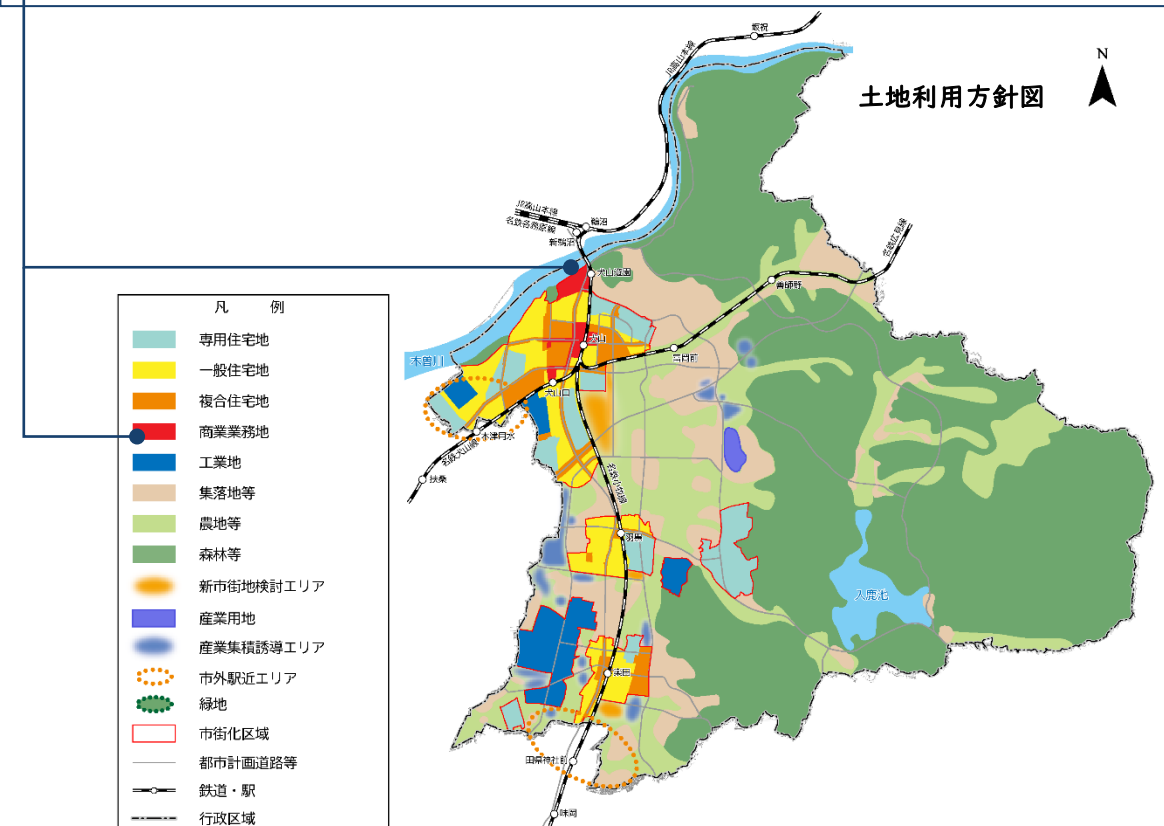
■犬山市都市計画マスタープラン（2023（令和5）年3月策定）

● 都市づくりの方針

1 土地利用の方針

■ 中心市街地（商業業務地・複合住宅地）（抜粋）

犬山城下町地区や内田地区の木曽川河畔では、居住環境と商業、観光・交流施設等が共存する商業業務地及び複合住宅地として、町並みとの調和や来訪者の増加に配慮しながら、まちの魅力を高める土地利用を維持・誘導するとともに、良好な町並み景観を形成します。



2 交通の方針

■ 歩行者・自転車空間（抜粋）

犬山城下町地区においては、歴史的な町並みや木曽川沿いの魅力をより一層高めるとともに、犬山駅から城下町、犬山城、木曽川河畔、犬山遊園駅までの回遊性を高めるような魅力的なルートの形成により、居心地が良く歩きたくなるウォークアブルな地区を目指します。また、「その場の価値」を伝えることができる案内看板（サイン）の設置など犬山市観光戦略に基づく整備や仕掛けづくりを進めることで、城下町地区と木曽川沿い地域とのつながりを強化し、一層の交流を促進します。

第1章 はじめに

■犬山市観光戦略（2022(令和4)年3月策定）

犬山観光の体系的な計画である「犬山市観光戦略(令和4年度～令和13年度)」において、木曽川河畔の活性化を重点的に進めることとしています。

観光まちづくり の将来像

課題

宿泊・滞在・体験

- ・ 日帰り観光客の滞在時間延長が必要
- ・ 宿泊数の増加が必要
- ・ 複数立ち寄りによる滞在時間の延長が必要
- ・ 国宝犬山城、犬山城下町、木曽川河畔など回遊性を高め滞在時間・宿泊数の増加が必要
- ・ 夜の魅力づくりによる滞在時間延長・宿泊の増加が必要 等

魅力の向上

- ・ 木曽川「日本ライン」としての魅力の再構築が必要
- ・ 木曽川河畔の魅力の向上が必要
- ・ 新たな名物の発掘・創出が必要(コンテンツづくり)
- ・ 豊かな自然(景勝地)の活用が必要 等

おもてなし・受入体制整備

- ・ 観光客と住民との共存・調和が必要
- ・ 観光に関わる人の増加が必要
- ・ 自分のまちを誇りに思う郷土愛の醸成が必要
- ・ 受入環境の整備が必要(看板・ゴミ・休憩所・施設整備) 等

犬らしさを磨き、ずっといたくなる、みんなでつくる・みんなのための観光

3つの基本理念

ゆっくりと安心して歴史・文化・自然が 楽しめ、地域も潤う(コンフォタビリティ)

- ・ 木曽川河畔や東部丘陵地域の里山風景など、多様な自然・景観資源を有しています。
- ・ これら先人から継承した資源を大切に育てながら、観光分野でも利活用していくことで、犬山観光を更なる高みに到達させます。
- ・ 日帰り観光客には、各所で体験・購入促進に繋がるコンテンツや商品を揃えるとともに、滞在時間の延長と消費の拡大を実現します。
- ・ 宿泊施設の充実、朝晩の魅力づくり、などにより「近場でも泊まってゆっくり楽しむ犬山観光」を実現し、宿泊者増加による観光消費の拡大を達成します。等

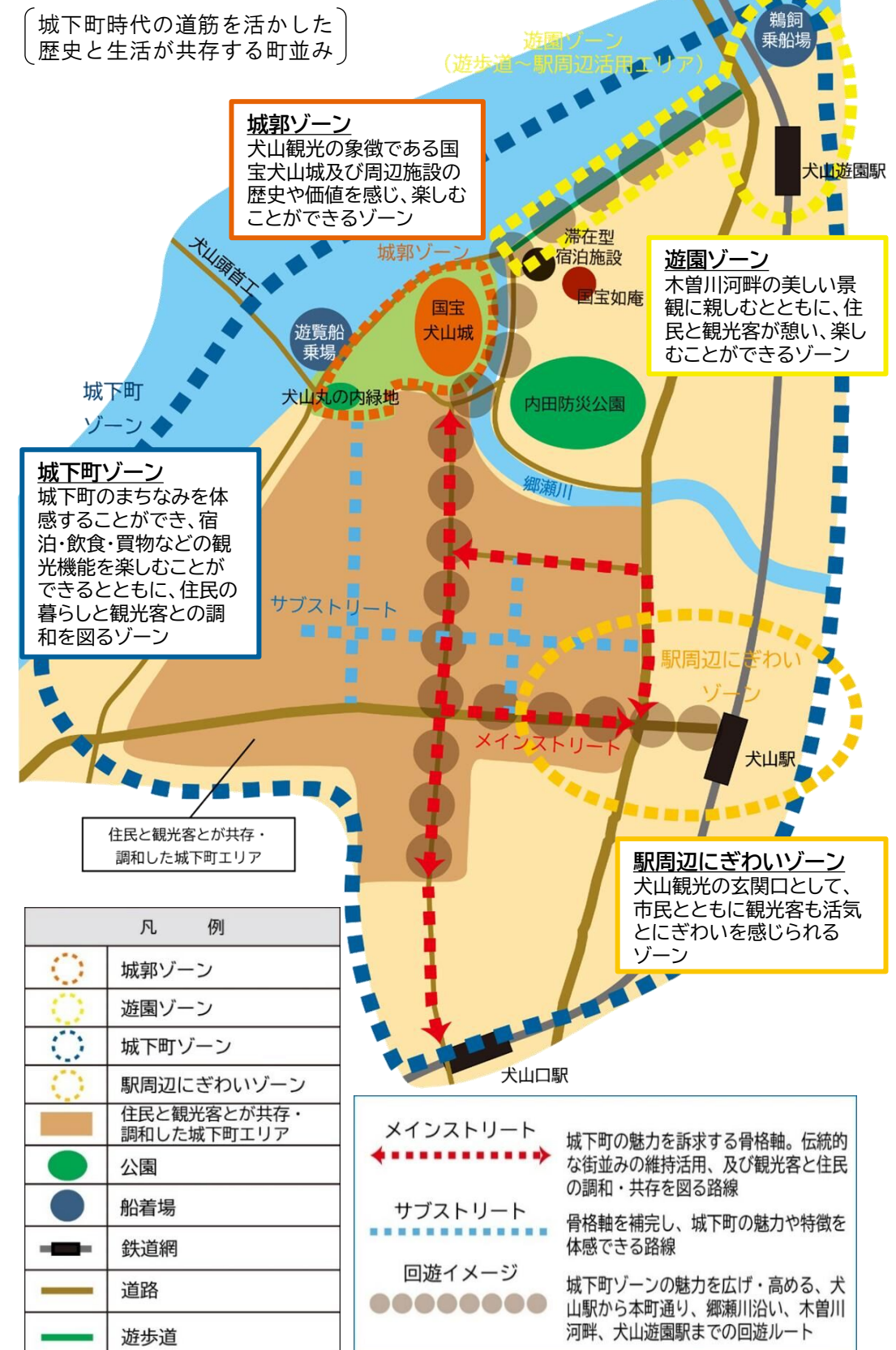
犬山ならではの感動が得られる (オリジナリティ)

- ・ 木曽川では「日本ライン」という古くて新しい魅力と価値の再構築を進めます。等

犬山人のおもてなしに出会える (ホスピタリティ)

- ・ 持続可能で成長し続ける観光地を目指し、市民、事業者、観光客が共存・調和できる状況を実現します。そのために、観光関係者などによる対話の場を通じ、市民の観光への理解と共感、そして関心を高め、参画、応援する人を増やします。 等

将来構想図



第1章 はじめに

(5) 基本構想の構成

第1章 はじめに

第2章 河畔空間の整備に向けた課題と条件等の整理

- (1) 河畔空間の現況図
- (2) 河畔空間の課題
- (3) 整備に向けた条件等の整理 【可能性調査】

第3章 河畔空間の整備に向けた検討

(1) 地域住民との対話の場の開催



(2) 実証事業の実施

河畔空間のつかい方を確かめる実証事業
(河畔deおためし大作戦)

河畔空間の灯りを確かめる実証事業
(河畔deアカリーヴァ)

第4章 河畔空間の整備のテーマと求められる機能

- (1) 検討の整理
- (2) 河畔空間の整備の4つのテーマ
- (3) 河畔空間整備で備えるべき機能・仕掛け

第5章 河畔空間の整備構想

- (1) 整備の考え方① 河畔空間構造の検討
- (2) 整備の考え方② 河畔空間の設えの検討
- (3) モデルプランによる比較検討

第6章 今後の整備に向けて

- (1) 施工方法の検討
- (2) 実証事業の継続的な実施
- (3) 継続的な住民参加のプログラム実施
- (4) 河畔空間の管理について
- (5) 整備による効果等について
- (6) かわまちづくり計画の策定について
- (7) ロードマップ

第2章 河畔空間の整備に向けた課題と条件等の整理

(1) 河畔空間の現況図

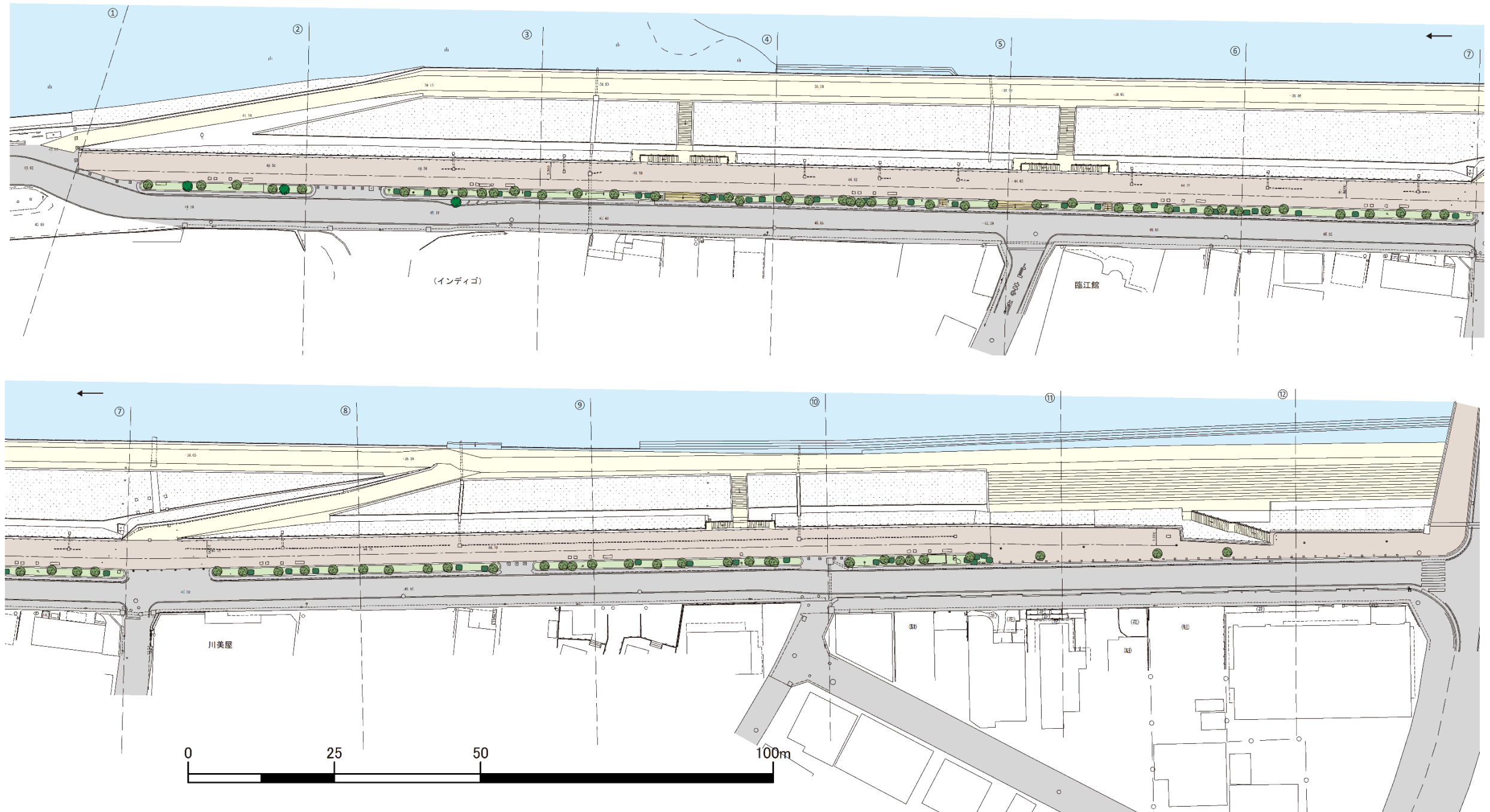
路線全長 : 約460,000mm

遊歩道幅員 : 約5,000mm

緑地部 幅 : 約2,000mm

車道 幅員 : 約5,500mm

遊歩道と車道の高低差 : 0~約800mm



第2章 河畔空間の整備に向けた課題と条件等の整理

(2) 河畔空間の課題

木曽川河畔の再整備に向けて、現状の河畔空間における課題を整理します。

■ 樹木が老朽化し、繁茂している



桜並木の老朽化が進み、生い茂っていることによって、視界が遮られて見通しの悪い空間となっています。

■ 路面の舗装が傷んでいる



路面の舗装の老朽化が進んでおり、排水施設が歩道の中央部を通っていることにより、路面に勾配がつき、歩きづらい状態となっています。

■ 夜間が暗い



照明が少ないため夜間は暗く、安心して通行しづらい空間となっています。

■ 車道と高低差がある



一部区間では、車道と歩道に高低差があり、活動時に車道と歩道を一体的に利用することが難しい状態です。

■ パラペットにより視界が遮られている



河川堤防の役割でもあるパラペットにより視界が遮られ、抜けのない空間となっています。

■ 緑地帯の管理に苦慮している



車道と歩道の間にある緑地帯のスペースが大きく、管理に多くの手間を要します。また雑然としている箇所もあります。

■ ベンチ等の利活用が十分でない



歩道上にはベンチが設置されていますが、利用者は多く見られず、利活用が十分ではありません。

■ 活動時の通行空間確保が十分でない



歩道上にキッチンカー等を配置した際に、通行空間として確保できる幅員が狭い状態となっています。

第2章 河畔空間の整備に向けた課題と条件等の整理

(3) 整備に向けた条件等の整理 【可能性調査】

関係機関との協議を実施し、河畔空間の整備に向けた条件や留意すべき事項、進めるべき検討の方向性について整理しました。
ただし、現時点では整備手法等は確定しておらず、あくまで構想段階であるため、具体的な計画書による協議・検討ではなく、整備にむけた「可能性」を整理したものとします。
引き続き、関係機関との協議を進めながら、検討する必要があります。

【現状の河畔空間の課題】

(※)P8より

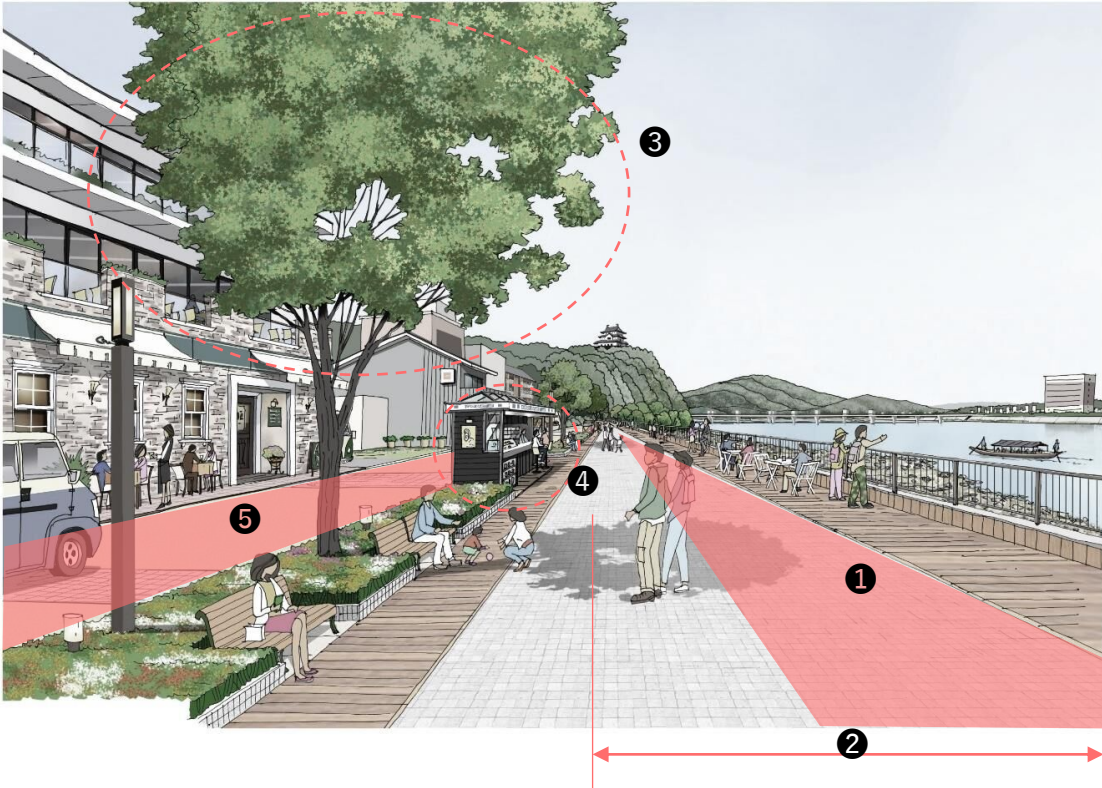
- 樹木が老朽化し、繁茂している
- 路面の舗装が傷んでいる
- 夜間が暗い
- 車道と高低差がある
- パラペットにより視界が遮られている
- 緑地帯の管理に苦慮している
- ベンチ等の利活用が十分でない
- 活動時の通行空間確保が十分でない

【整備に向けて検討すべき項目】

目指すべき空間像を実現のために検討すべき項目

- ①遊歩道としての通路幅確保**
遊歩道で活動したり、仕掛け等を設置したりする上で、樹木剪定や緑地スペースの改善を検討するなど、通行に支障がない通路幅の確保を検討する。
- ②遊歩道の仕上げ高さ**
パラペットの存在を意識せず、開放的な空間を確保するため、遊歩道の仕上げ高さを検討する。
- ③既存樹木の取り扱い**
景観としてあるべき姿を見直し、河畔空間を構成する要素としての必要性を検討する。
- ④建築施設の設置の可能性**
飲食等による河畔空間で滞在する時間を増やすような施設の立地の可能性を検討する。
- ⑤歩行者に配慮した車道の安全対策**
歩行者が増えることを想定し、安全性に配慮した車道の交通規制のあり方について検討する。

～犬山市観光戦略における河畔空間整備のイメージ像～



【今後の検討に向けた方向性】

可能性調査のまとめ

- ①遊歩道としての通路幅**

遊歩道内には、河川管理用の有効幅を確保することが必要である。
- ②遊歩道の仕上げ高さ**

側壁（パラペット）に土圧をかける盛土をする場合は、安全対策の検討が必要である。
- ③既存樹木の取り扱い**

現況の樹木について、伐採、伐根することは可能である。
- ④建築施設の設置の可能性**

飲食店等の建築施設は、区域指定、形態、配置等、基準を満たす条件を検討することが必要である。
- ⑤歩行者に配慮した車道の安全対策**

車道幅員の縮小等、安全の確保につながる対策は可能である。

第3章 河畔空間の整備に向けた検討



(1) 地域住民との対話の場（河畔deカタリーヴァ）の開催

犬山市観光戦略の重点プロジェクトである木曽川河畔(内田地区)の活性化の具現化には、河畔空間が住む方や訪れる方にとって「憩いと活躍の場」となることが必要です。また、整備に向けては行政や関係機関だけでなく、地域住民等との対話が重要と考えます。このことから、地域住民のみなさんや河畔に関わりのある方を対象として、ざっくばらんに語り合う場「河畔deカタリーヴァ」を計6回開催。楽しみながら河畔の未来に向けて具体的な取組みを検討しました。

■開催日程とテーマ・内容

1 木曽川河畔空間って？

令和4年8月31日(水)

参加者同士が木曽川河畔空間への想いを発表しあい、今後の検討に向けた第一歩となりました。

- (内容)
1. はじめに
(前提条件の共有)
 2. アイスブレイク
 3. バズトーク
 4. グループ発表 & 全体共有
 5. ふりかえり & まとめ



2 つかい方の物語 @河畔空間

令和4年9月28日(水)

参加者が、木曽川河畔での過ごし方について想いを共有することで、参加者が木曽川河畔に求めるものを把握すること。

- (内容)
1. 前回のふりかえり
 2. アイスブレイク
 3. グループワーク
 4. グループ発表 & 全体共有
 5. ふりかえり & まとめ



3 デザインしよう！河畔空間

令和4年11月2日(水)

参加者が、思い描く河畔空間のイメージをデザインすることで、今後の整備に向けたコンセプト等を把握すること。

- (内容)
1. 前回のふりかえり
 2. 事例紹介
 3. 自己紹介
 4. デザインゲーム
 5. グループ発表 & 全体共有
 5. ふりかえり



4 河畔deおためし大作戦！

令和4年11月30日(水)

参加者が実際におためし事業を企画することで、河畔に対する愛着の醸成と今後の継続的な河畔空間の活用につなげる。

- (内容)
1. 前回のふりかえり
 2. 事例紹介
 3. 個人ワーク
 4. Projectチーム結成
 5. グループワーク
 6. グループ発表 & 全体共有
 7. 今後に向けて



5 おためしPROJECT発表会

令和5年1月25日(水)

おためししたことをグループごとに発表し、意見交換することで、継続的な活動に向けて必要なこと等を整理すること。

- (内容)
1. 前回のふりかえり
 2. おためしPROJECT発表会
 3. グループワーク
 4. 全体トーク



6 確認しよう！基本構想(案)

令和5年3月15日(水)

これまで検討してきたことを踏まえ、今後の河畔空間のあり方を示す基本構想の案をみんなで確認し、共有すること。

- (内容)
1. 前回のふりかえり
 2. 基本構想(案)の紹介
 3. えんたくん会議
 4. グループ発表 & 全体共有
 5. ふりかえり & 今後に向けて
 6. チェックアウト



第3章 河畔空間の整備に向けた検討

■ソフト編のアイデアの整理 <第2回河畔deカテリーヴァより抜粋>

河畔deカテリーヴァでは、河畔に「あったらいいな」と思う機能をざっくばらんに語り合いました。



「木曽川河畔の宝探し」

【春】

出会いと別れの季節。
新しくできた友達とあそぶ新一年生。
旅立つ仲間を送り出す若者たちが、BBQで盛りあがる。
そんな宝のような時間を私はこの**ベンチ**から見てすごす。

【夏】

朝、暑さを避けて**木陰**で美味しい冷たい物を飲んで楽しみたい。
昼、河畔で音楽好きな仲間達といろいろセッションしながら楽しみたい。
夜、犬山城のライトアップと、夏のロングラン花火を見ながら、**夜市(マルシェ)**でおいしい食べ物、飲み物を宝探しのように楽しみたい。そしてやっぱり**電源**が必要なんです。

【秋】

あたりは**紅葉**を始めました！
木曽川河畔の夕暮れの美しいひと時
川では観光船がゆっくり犬山城を眺めながら楽しんでいます。
川辺では**テーブル**にお酒を置き、足もとには**足湯**があり、それにつかりながら、きれいにあがったお月様を見ながら、**近くのお店の座敷**には、酒をくみかわす人々も心和やかに秋のひと時を楽しんでいます。

【冬】

冬の風景をバックに、川原で新成人が成人式をする。
そこへ家族がペットをつれて参加する。
また旅行者も参加する。
その後**足湯**に入り心あたたまった。

【その他】

お城を見上げながら・・・親子でジョギングしたり、家族で食事をしたり、土産を買ったり。
川では船上で結婚式。
そんなちょっと気になる犬山河畔。

「ふらっと」

【春】

カメラ片手にふらっと桜を見に来た春の犬山。
木曽川河畔の遊歩道を歩いていたところ、なんと**朝市にマルシェ**で賑やかなこと。
つつい食道楽に走ると共に、その後はやっぱり花見、宴会。

【夏】

すでにあちこちで**休ん**でいるもの、談話しているもの、ジョッキを片手にしているもの、明るく照らされた川辺に子供達が魚を見つけ喜び楽しんでいる。大人達は**安全なこの場所**で自由にさせている。
鵜匠舟が川辺に横付けとなり、鵜飼の説明が始まった。同時に**バックミュージック**が鳴り出し、鵜匠の説明がはっきりと聞える。各ホテルから外国の旅行客が各国の言葉でブラボー。子供達は覚えてたの英語で話しかけ良いムードだ。
翌日にはボランティアの人が清掃に来たが、河畔は実にきれいだ。

【秋】

川沿いにあるホテルに来たけど、ホテルに入る前にあった道がすごくステキだったから後でみんなで歩いてみよう。
ふらっと遊歩道に行ってみると子どもは**テラスデッキ**ではしゃいで、その様子を奥さんがほのぼのと写真を撮っている。

この先に駅や反対側には犬山城もあるのも分かり、**案内標識**がすごく親切な場所だ。

【冬】

早朝、自転車をこいでいると様々な**お店**が川沿いに出ていた。
自転車から降り、歩いてみる。
途中で美味しそうな良い匂いがしてきたので立ち寄ってみると、温かいスープを売っていた。
買って飲み、暖まっていると地元の人に声をかけられた。犬山城のこと、春になると桜がキレイなこと、夏は花火大会があったりと、面白い話を沢山聞いた。

【その他】

ふらっと犬山に来てみたら、おじいちゃん・おばあちゃんが気軽に会話を楽しんでいるステキな街でした。

「男女5人の河畔物語」

【朝】

季節は初夏。
健康家族の一日のはじまりは、川のせせらぎを聞きながら、おいしい空気を胸一杯すって、体全体で朝日を浴び、家族(犬含む)で楽しく散歩。
持参のラジオで**ラジオ体操**を行い、途中で**バードウォッチング**をし、季節の鳥の変化を感じる。

【昼】

今日も自転車で木曽川の河畔を東へ向かう。
なんだかシャレた**テラス**でランチをしているカップルを見かける。
羨ましそうによそ見して走っていたら、うっかり自転車を倒してしまった。なんと目の前に、旅人も使える**自転車修理スペース**が!!犬山はなんて旅人に優しいんだ。
ふと見ると、木曽川から水をひきこんだ安全な**水辺スペース**で遊ぶ幼稚園児たち。

【夕】

夕暮れ時、観光客もふらりと遊びに来た人も近所の方もどこからともなく木曽川河畔に集まってくる。
今日は映画鑑賞会なのか音楽会なのか、ビブリオバトルなのか**イベント**を楽しみに集まる。
足湯でゆったり夕日を眺める人。グラスをかたむける人。のんびり、ゆったりした時間が流れている。

【夜】

新しく整備された歩道に出来たおしゃれな**バー**がいくつもある。その1つで再会。冷たいビールで再会の乾杯!!おいしいつまみもうれしい。店の雰囲気は最高だ。昔話に花を咲かせる。心地よく酔ってきた。川面を眺めると鵜舟のかがり火が美しく光る。
家族連れだろうか、楽しく鵜飼を見学している。岸では線香花火をしている人。

【その他】

豊かな自然と楽しいスポーツ・文化にひたり、おいしい食事と飲み物に満たされた。ゆったり休める**木陰とベンチ**も充実していて犬山最高!!
観光ガイドの方々から犬山の歴史も学べて、どんどん犬山の色々な所に行きたくなりました～!!

「黒ネコ『しっぽ』の川辺の一日」

【朝】

「ファ～」と深呼吸するにゃーよ！
朝は気持ちがいいにゃー。「おはよう」が気持ちいいにゃー。
体を起すために**ラジオ体操**がんばってにゃー。
目がしゃきっとしたら、おいしいコーヒーが飲みたいにゃー
さあ次はお昼寝だにゃー

【昼】

「ニャンて!!!いい日だにゃー!!!」
河原に出てみたら、皆んな集まって何か音出してるにゃー！
川では、何かに乗ってプカプカういてるにゃー！
お買い物した人が楽しそうにながめてるにゃー！
じゃ、昼寝しよ!!

【夕】

「ふにゃー」よくねたにゃー!!
日が暮れてきたにゃー。この**ベンチ**は寝ごちがいにゃー。
広場では、夕日見ながら「サンセットヨガ」のワークショップ。歩道では**サイクリング**。車道には**バイカー**。
今日もみんなゆっくり過ごしてて、幸せだにゃー。
また寝よっかにゃー。

【夜】

「んーふーん」
月が明るい夜、いくつもの**照明**に灯りがともったにゃー。
スピーカーからはジャズが聞こえてきたにゃー。
若者達はいい雰囲気。邪魔しちやいけなにゃー。
こっちは同居人のパパや、遠くから来た人達が乾杯してグラスを合わせている！
いいにゃー。おやすみ。

【その他】

「ウオッ！」(川には色んな顔があるにゃー)
朝、昼、夕、夜とみんな色々やってるにゃー。
でも、危ない時もあるから気を付けるにゃーよ。
さあ、みんな明日もがんばるにゃー。

必要なアイテム:

ベンチ、テーブル、樹木、電源、足湯、飲食店、土産店、広場(マルシェ)

必要なアイテム:

ベンチ、子供の遊び場、音響設備、テラスデッキ、案内標識、サイクルステーション、飲食店

必要なアイテム:

広場、テラス、自転車修理スペース、子供の遊び場(水辺)、足湯、バー、飲食店、ベンチ、樹木

必要なアイテム:

広場、お店、ベンチ、自転車/バイク用スペース、照明、音響、飲食店

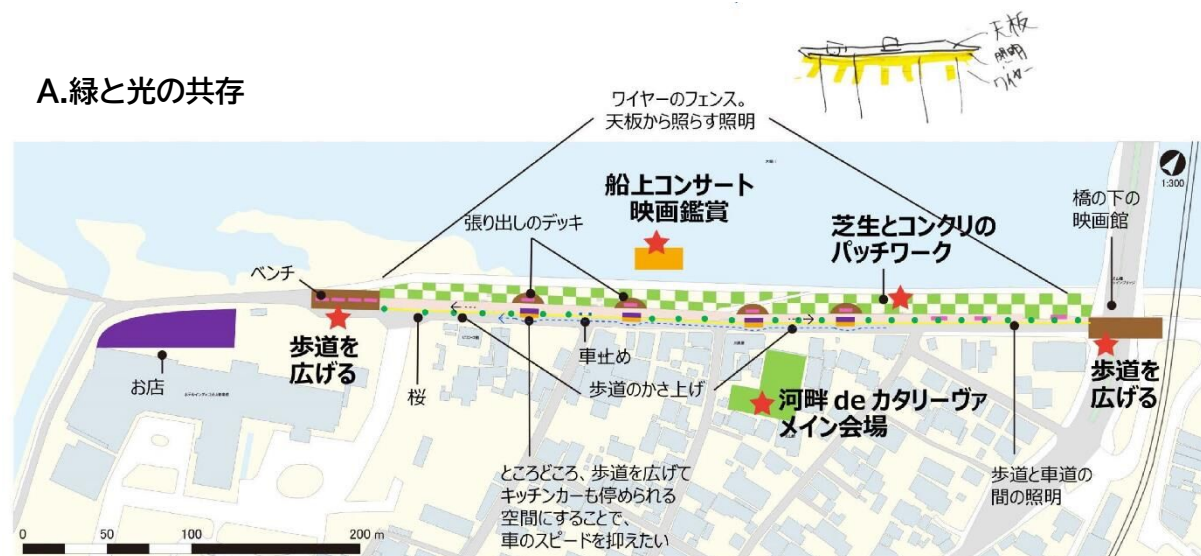
第3章 河畔空間の整備に向けた検討

■ハード編のアイデアの整理 <第3回河畔deカタリーヴァより抜粋>

前回(第2回)に引き続き参加者同士の自由な語り合いの中で、河畔に「あったらいいな」と思う機能を、地図上に配置しました。

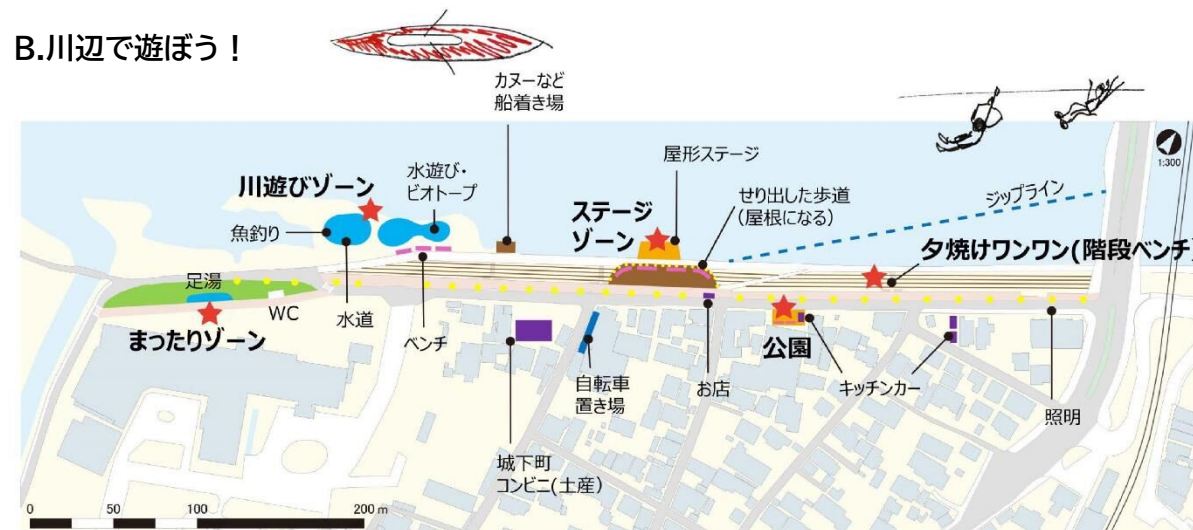


A. 緑と光の共存



キーワード:
緑、光、演出

B. 川辺で遊ぼう！



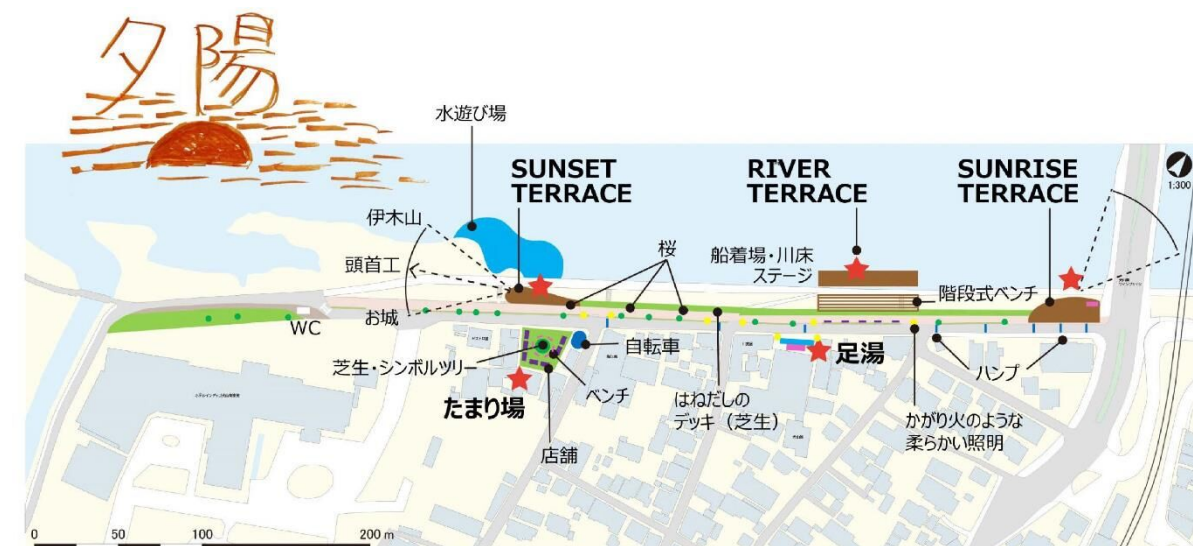
キーワード:
遊び、集客コンテンツ

C. 水の流れと人の流れ



キーワード:
人流、回遊性

D. KISOGAWA TERRACE



キーワード:
景観

(2) 実証事業の実施

河畔空間のつかい方を確かめる実証事業（河畔deおためし大作戦）

対話の場の参加者が4つのグループに分かれて自ら企画し、挑戦した成果を踏まえて、継続的につかい続けてもらうことができる河畔空間の整備につなげることを目的として実施しました。

A) 『全員で集合しちゃう？皆であつたまろうぜえ～！』

(令和5年1月22日(日)9時～13時頃 実施)

■活動目的

カタリーヴァを木曽川河畔現地で実施すること

■活動内容

あたたかい鍋、犬山焼土鍋で炊いたご飯、あたたかい飲み物をつくり、ふるまいました。



想定していたよりも多くの人が来てくれました。来られた方は自転車、ランニング、近隣住民がほとんどを占めていました。
鍋は100食弱、ご飯は20食程度提供しました。

■今後の取組に向けて

=よかったこと・継続したいこと=

- ・ 地元食材や地元の文化を活かす

=課題点=

- ・ 看板を用意しておくことで取組内容を周知する必要がある
- ・ 椅子等の飲食できる場を十分に用意する必要がある

=次回、取組みたいこと=

- ・ 椅子やテント等でおしゃれな空間をつくる
- ・ 例えば犬山産の自然薯といった地元食材をつかったごはんづくりを行う
- ・ 犬山焼や地元食材の紹介もあわせて行う

B) 『誰もがアクティブアーティスト！』

(令和5年1月22日(日)7時30分～14時頃 実施)

■活動目的

発表の場や体験ができるような人が集まる場所づくりをすることで、感動体験を共有すること

■活動内容

ボートを木曽川に浮かべて船上ライブを開催しながら、スープカレーをつくって来場者にふるまいました。



来場者数80名近く、スープカレーは75杯程度提供しました。
音楽と食べ物があること、座れる場所があり、ゆっくりできるスペースがあったことが来場者に喜んでもらえました。
SNSでの投稿でも数件シェアされていました。

■今後の取組に向けて

=よかったこと・継続したいこと=

- ・ 船を出すことを実行できたこと
- ・ 音楽ステージを小さくてもつくることのできたこと
- ・ 川と音楽、食がうまくつながったこと

=課題点=

- ・ テーブルやベンチ等の休憩スペースが必要である
- ・ 事前にレイアウトを検討して、テントを張ることで狭くなる場所がないか検証する必要がある
- ・ 電源を確保する必要がある

=次回、取組みたいこと=

- ・ 夜に水上のイベントを増やす(音楽ライブ、ファイヤーダンス、飛び入り参加型のイベント等)
- ・ 映画等をスクリーンに映す

C) 『みんなでタマリーバ!』

(令和4年12月23日(金)、令和5年1月6日(金)16時30分から19時頃、1月22日(日)9時から16時頃 実施)

■活動目的

- ・冬の寒空の中、どこまでタマリーバ(寒い冬でも河畔をたまり場として楽しむこと)が出来るのか?を検証。
- ・河畔・内田町の歴史的な資源を探る!(歴史について学ぶ)
- ・河畔沿いの空地や事業者(ホテル)との連携の可能性を探る!

■活動内容

バーカウターの設置や書初め大会、福笑いを実施しました。
また、ホテルインディゴ犬山有楽苑の協力のもと子ども向けの体験ツアーや内田ストーリーツアーを実施しました。

ツアー参加者は内田町子ども会36名(うち子ども20名)が集まりました。
子ども達や地域との関わりや河畔のにぎわいづくりの重要性を再認識しました。



■今後の取組に向けて

=よかったこと・継続したいこと=

- ・地域に活動を周知できたこと
- ・河畔でできることがたくさんあることが分かったこと

=課題点=

- ・町内会も巻き込めないか検討する
- ・椅子やテーブル等の備品を用意する必要がある
- ・継続に向けて組織をつくる必要がある。

=次回、取組みたいこと=

- ・バーカウターを拡充すること
- ・子どもの遊び場を確保すること
- ・内田今昔物語のパネルを設置すること

D) 『犬山の河川空間を見つめなおす』

(令和4年12月1日(木)～令和5年1月25日(水)間随時 実施)

■活動目的

- ・人を引きつける(集客できる)景色・空間とは何かを探る
- ・犬山ならではの、歴史、自然、観光資源の再認識
- ・残すべき(残したい)ものは何か>>新旧の融合

■活動内容

現状を認識するため、ツインブリッジからライン大橋間の犬山側と鵜沼側を歩いて色々な方向から観察しました。

<木曽川遊覧船の有効活用>

ツインブリッジ上流から犬山城までの景観の有効活用

<名鉄とのタイアップ強化>

河畔に人を呼び込むには鉄道利用者脚増加が不可欠



■今後の取組に向けて

=よかったこと・継続したいこと=

- ・意識して内田地区を周ることで自然と歴史がたくさんあることに気づけ、残したいものを見つけられた

=課題点=

- ・同チーム以外のカタリーヴァ参加者等への案内を増やす必要がある

=次回、取組みたいこと=

- ・船に乗って河畔空間を見つめなおすこと
- ・観光客の意見・感想を収集すること
- ・カタリーヴァの参加者とともに参加して感想を聞くこと

第3章 河畔空間の整備に向けた検討



河畔空間の灯りを確かめる実証事業（河畔deアカリーヴァ）

カタリーヴァ参加者との対話の場で出たアイデアをもとに、試験的に「明るさのある空間」を設けました。整備後のイメージを探るとともに、空間の使い方や配置、規模の妥当性を検討することで、必要な機能についての確認を行いました。

■実施期間

令和5年1月20日(金)～1月22日(日)

17時～21時

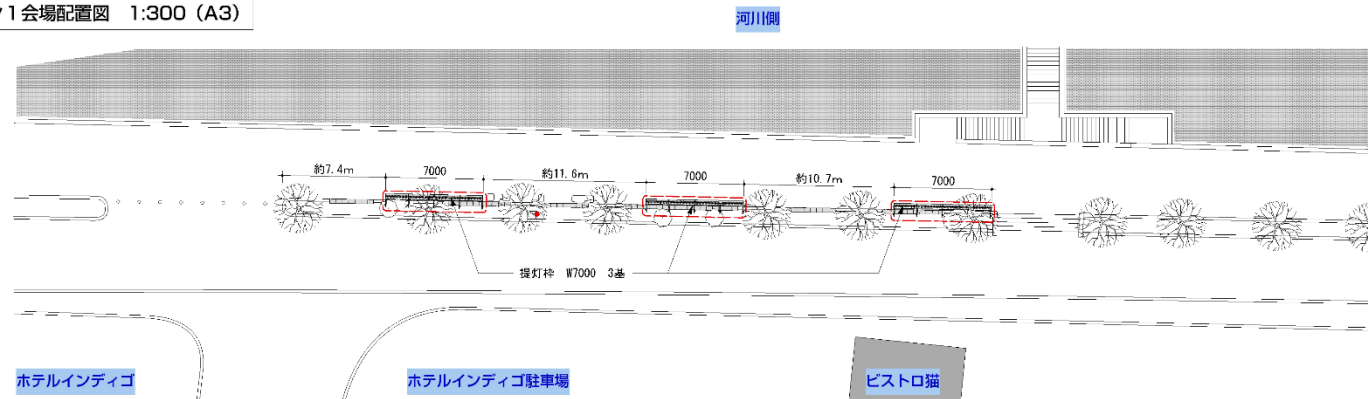
■実施場所と実施内容

河畔空間を2つのゾーンに分けて2種類の照明演出を仕立て、参加者に異なる空間体験を提供しました。

ゾーン① 提灯のカーテン

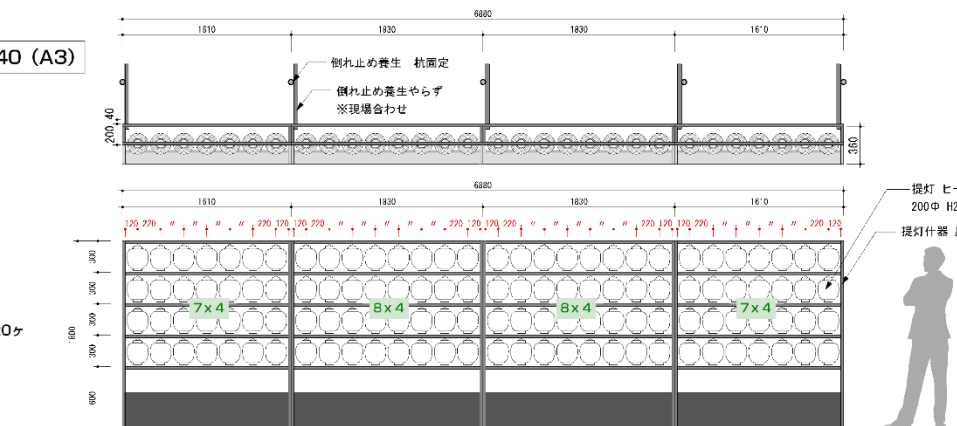
犬山らしい情緒のある提灯を設置しました。

ゾーン1会場配置図 1:300 (A3)

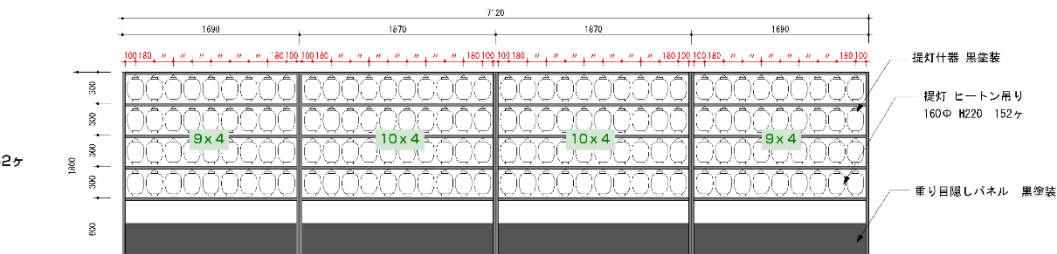


提灯什器 詳細 1:40 (A3)

① 提灯サイズ 200φ H230 120ヶ



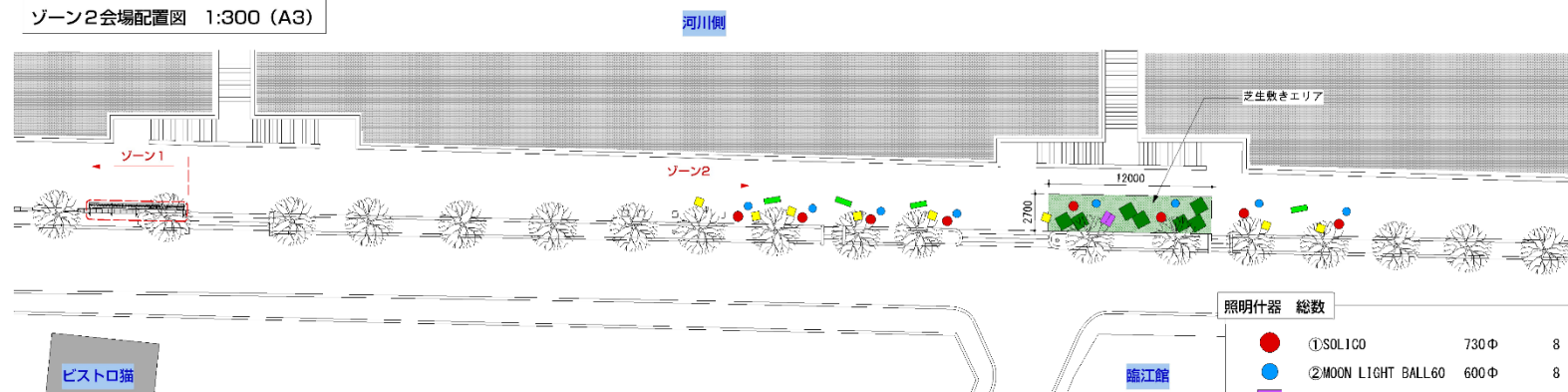
② 提灯サイズ 160φ H220 152ヶ



ゾーン② 光のオブジェ

イスやテーブルの形状をした光のオブジェを設置しました。また、光のオブジェとともに人工芝や木製パレットを設置し、滞在空間の創出を図りました。通行空間としてパラペットから3.0m確保し、残り2.5m程度を滞在空間として人工芝等を設置しました。

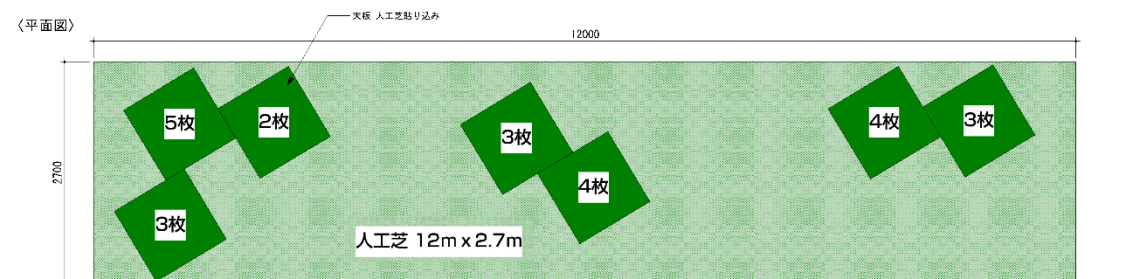
ゾーン2会場配置図 1:300 (A3)



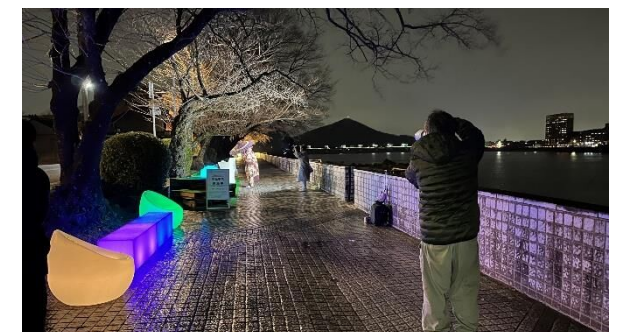
照明什器 総数

① SOLIGO	730Φ	8
② MOON LIGHT BALL60	600Φ	8
③ DUBHE	900×800	1
④ SIRIUS STRAIGHT	1200×400	4
⑤ CUBIX60	600×600	8

パレット配置例 1:50 (A3)



〈立面図〉



第3章 河畔空間の整備に向けた検討

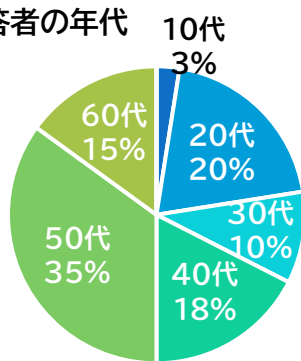


■ アンケート調査

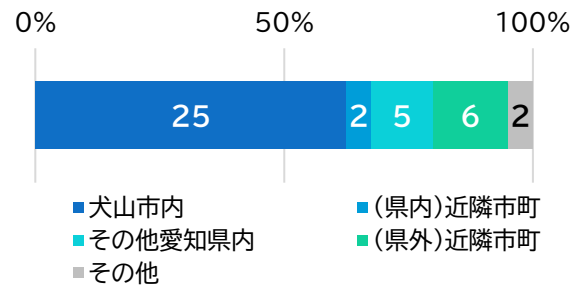
河畔空間の再整備に向けて、河畔deアカリーヴァに訪れた方を対象にアンケート調査を行いました。

- ・アンケート方法:webアンケートと紙様式の併用
- ・回収数:40件

回答者の年代

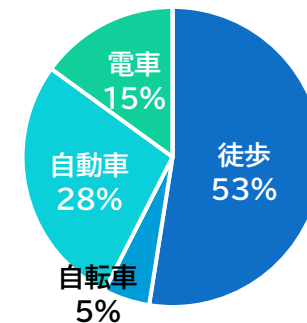


回答者の住まい



Q1

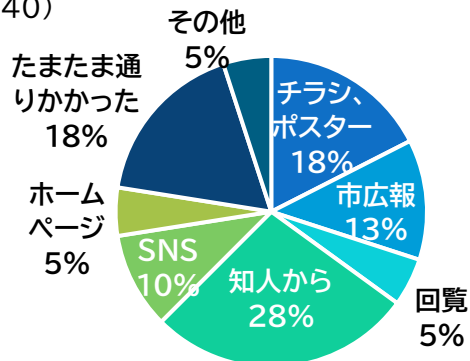
ここまでの移動手段を教えてください。
(n=40)



“徒歩”が53%と最も多く、次いで“自動車”が28%と多くなっていることから、河畔空間の整備に合わせて駐車スペースの確保を検討する必要がある。

Q2

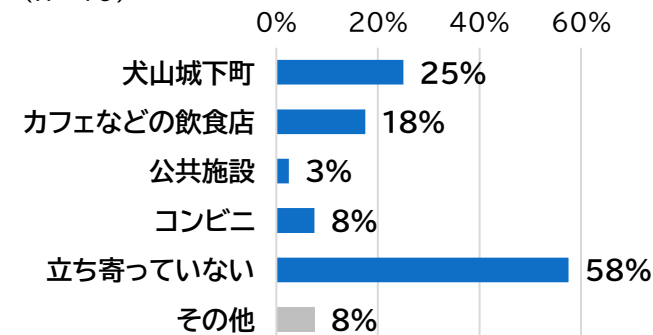
このイベント(実証事業)を何で知りましたか？
(n=40)



“たまたま通りかかった”が18%存在していることから、日常的に木曽川河畔を訪れる人が多いことが分かる。

Q3

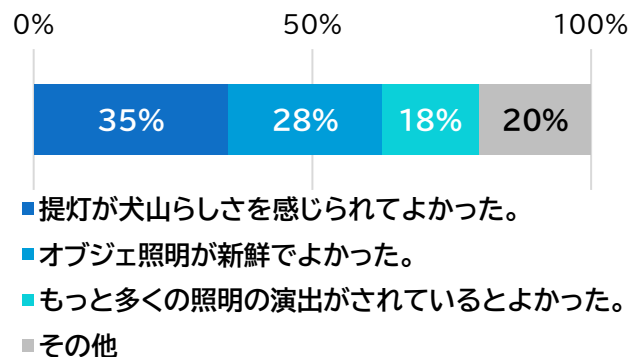
このイベントへ来場する前に犬山市内でどこかに立ち寄りましたか。※複数回答
(n=40)



“立ち寄っていない”が58%を占めており、イベント自体が木曽川河畔を訪れる目的となることが分かる。

Q4

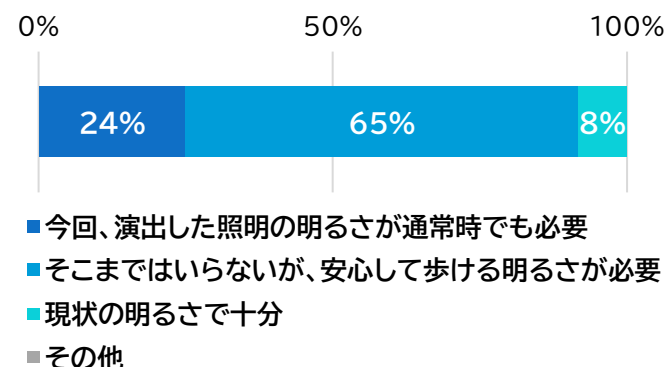
照明演出についての感想を教えてください。
(n=40)



提灯のカーテン、光のオブジェともに好評だったが、一方で照度が高いことによる犬山城や木曽川の夜景を阻害しない工夫が必要であるという意見があった。

Q5

河畔空間の日常的な明るさについて、今後、整備を進める上で必要だと思うことを教えてください。
(n=37)

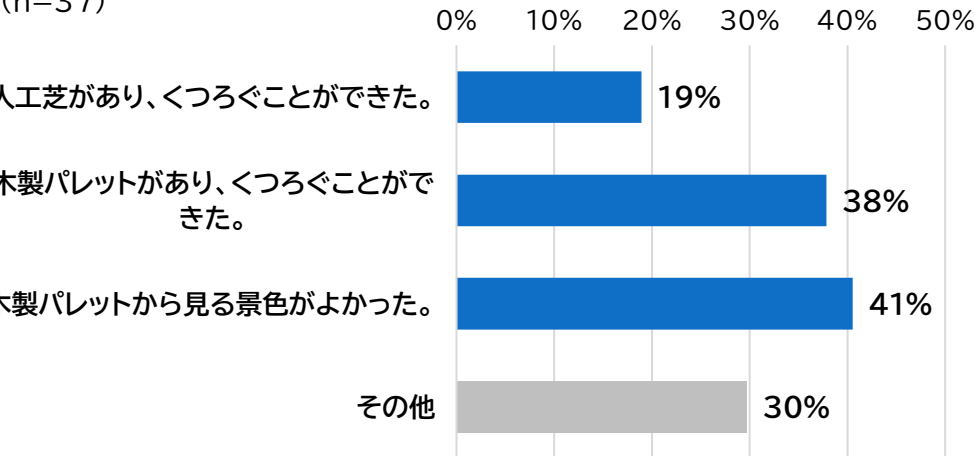


現状以上の明るさが必要と回答した人が90%を占めていることから、安心して通行できる程度以上の明るさが必要であることが分かる。



Q6

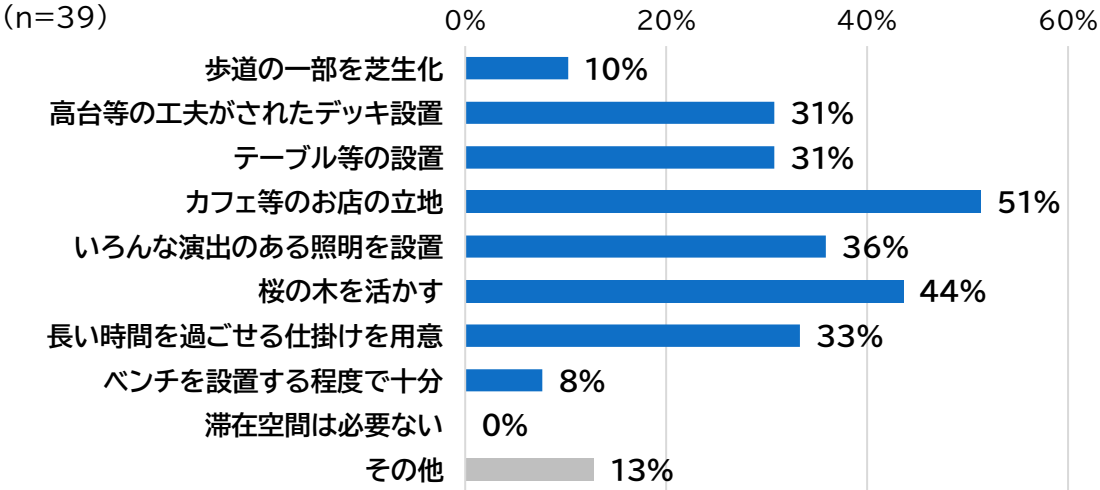
滞在空間の演出(人工芝、木製パレット)についての感想を教えてください。
※複数回答
(n=37)



“木製パレットから見る景色がよかった”が41%と最も多くなっていることから、視点が変わる場を用意することで、長い河畔空間においても違った景色を楽しむことができることが分かる。

Q7

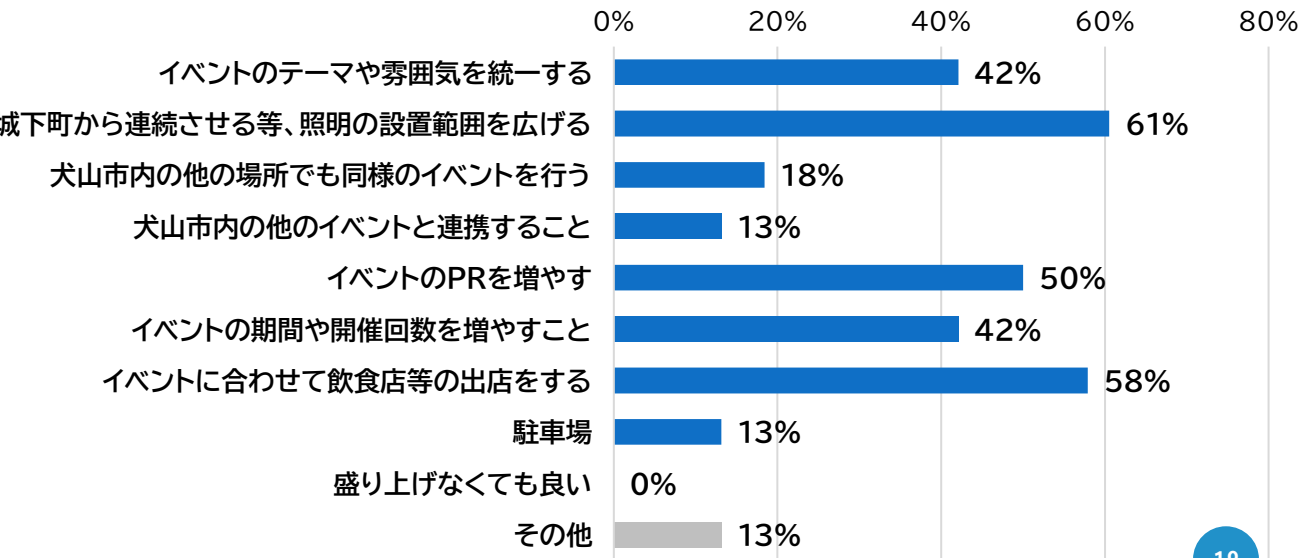
河畔空間のあり方について、今後整備を進める上で必要だと思うことを教えてください。
※複数回答
(n=39)



“カフェ等のお店の立地”が51%と最も多くなっていることから、河畔空間において飲食ができる場が求められていることが分かる。

Q8

この照明演出イベントをさらに盛り上げるためには何が必要だと思いますか？※複数回答
(n=38)



“城下町から連続させる等、照明の設置範囲を広げる”が61%と最も多くなっていることから、城下町等と連携して、回遊性を高める仕掛けを検討する必要があることが分かる。

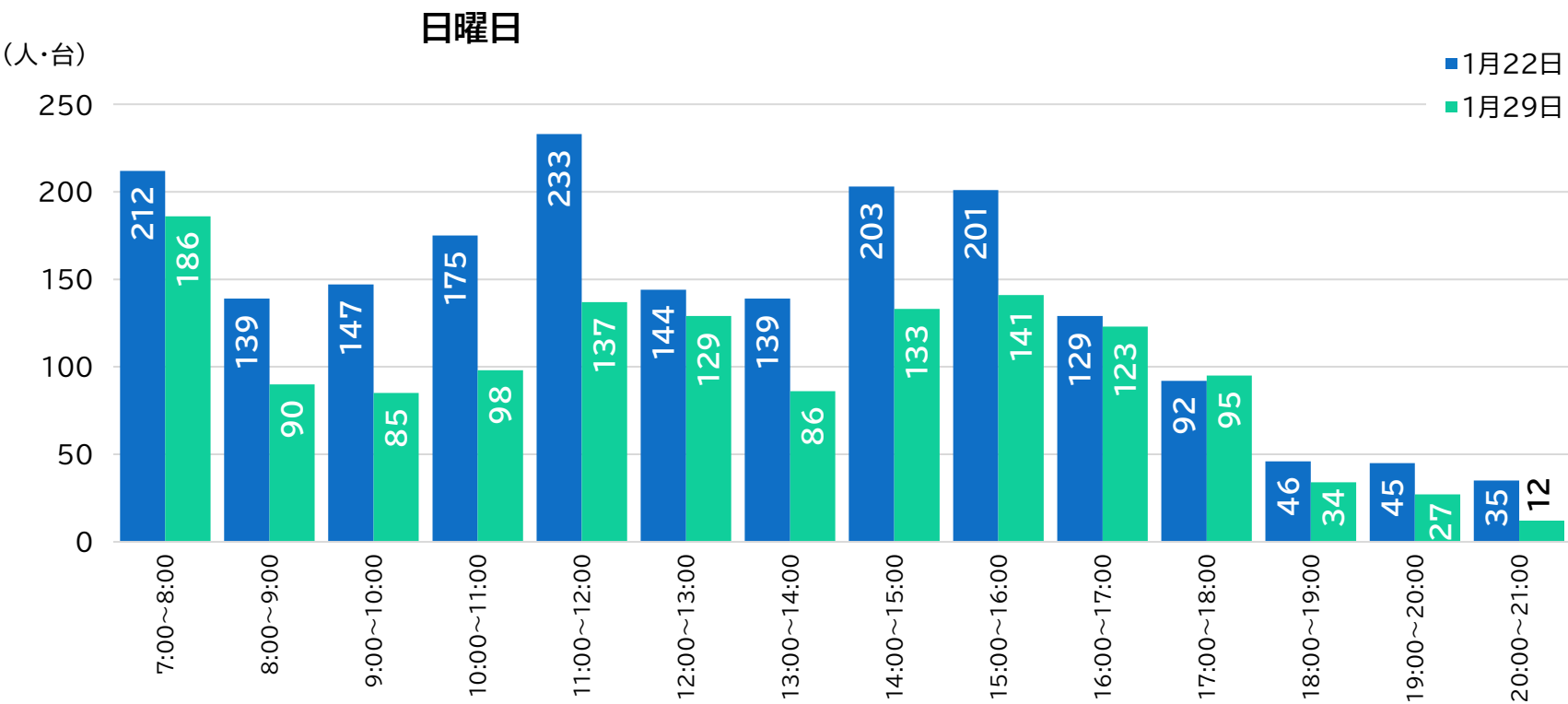
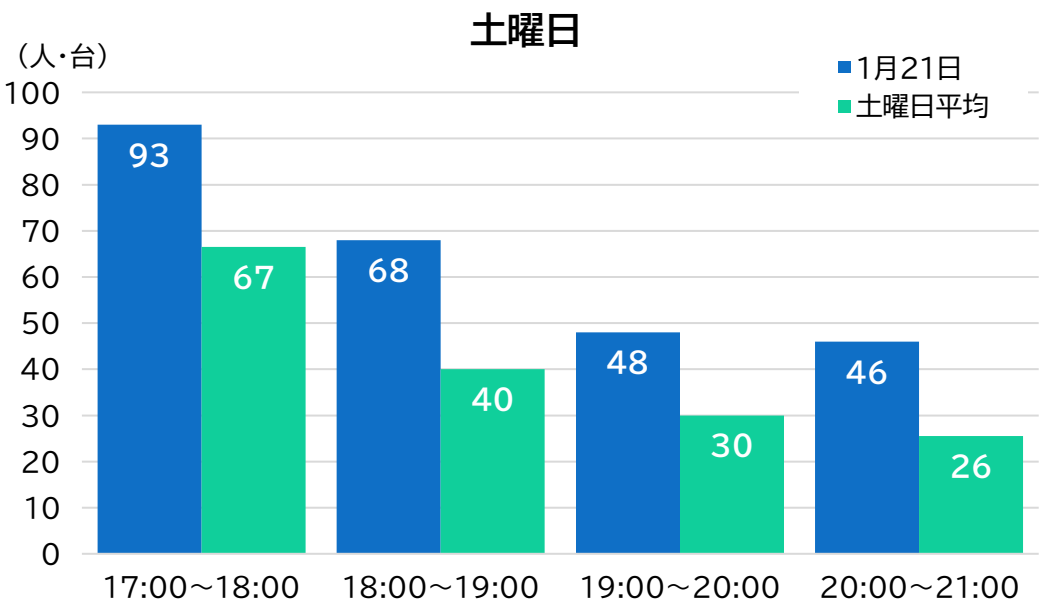
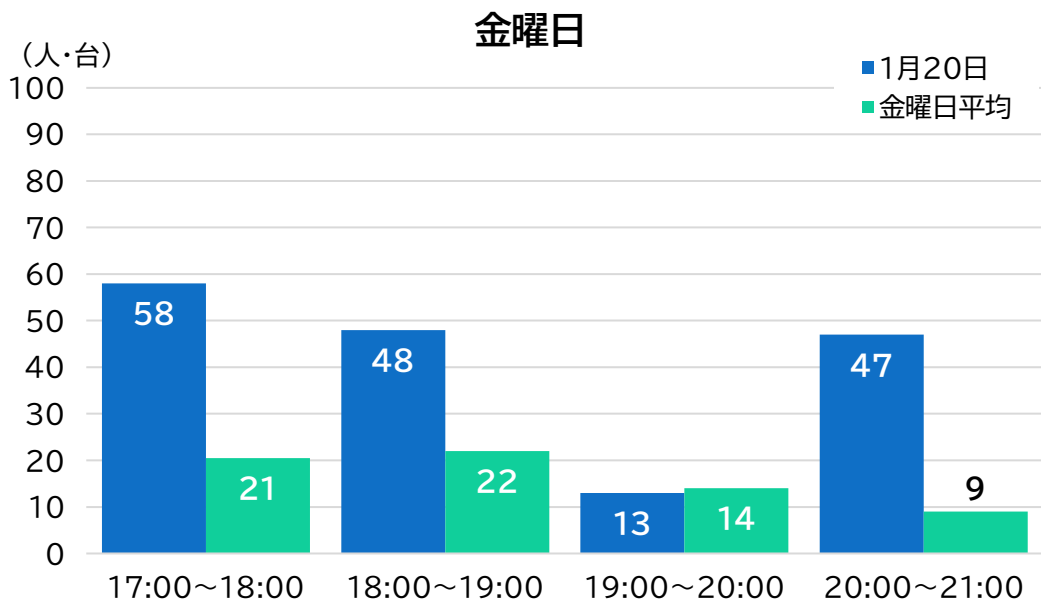
第3章 河畔空間の整備に向けた検討



歩行者交通量調査

河畔空間の再整備に向けて、平常時と河畔deアカリーヴァ実施時に交通量調査を行いました。

- ・調査日: 令和5年1月13日(金)、14日(土)、20日(金)★、21日(土)★、22日(日)★、27日(金)、28日(土)、29日(日)の全8日間 <★: 河畔deアカリーヴァ実施日>
- ・時間帯: 各日午前7時～午後9時(14時間)
- ・対象: 歩行者、自転車

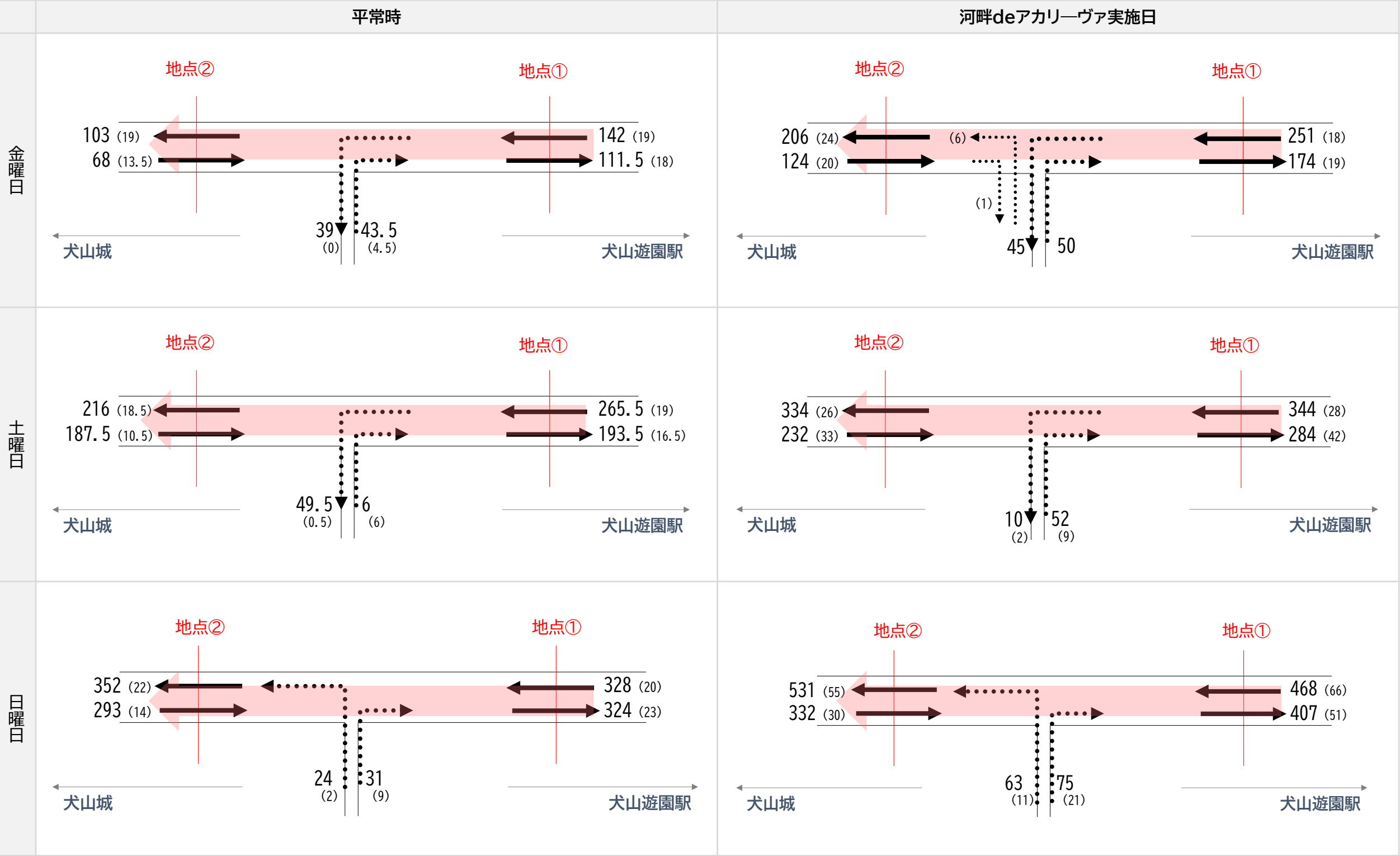


- 17時以降の夜の時間帯は朝・昼に比べて木曽川河畔へ訪れる人が少ない。
- 17時以降の河畔deアカリーヴァ実施時間帯が平常時と比較して交通量が多くなっている。
- 1月22日(日)は9時～16時頃まで、河畔deおためし大作戦が行われており、特に9時～12時の間は交通量が平常時より2倍弱増えている。

第3章 河畔空間の整備に向けた検討



- 平日より休日(土、日曜日)の方が地点①、地点②とも交通量が多い。
- 平日、休日のいずれにおいても、犬山城方面より犬山遊園駅方面から訪れる人が多い。
- 日曜日は内田地区からの流入が多い。



第4章 河畔空間の整備のテーマと求められる機能

(1) 検討の整理

●河畔空間の通行する環境について 安心して歩くことができる空間

- 通行空間としては、幅員3.0m以上確保することが望ましいです。

河畔空間に必要な明るさ

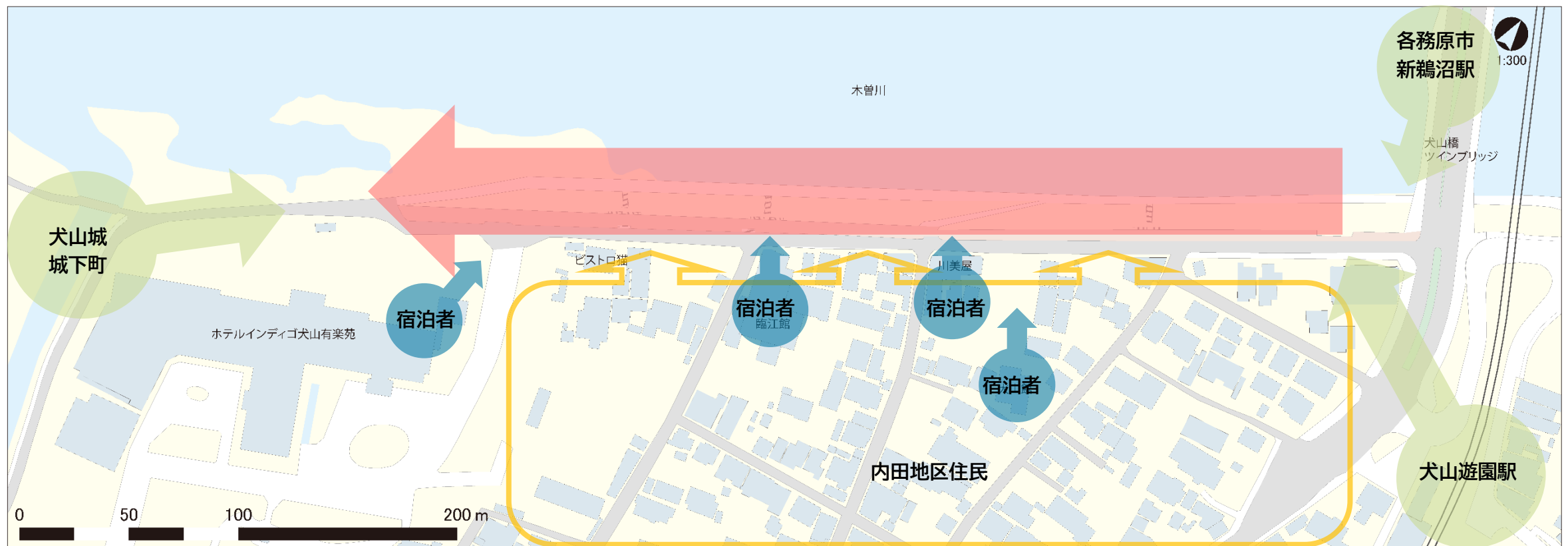
- 夜間には安心して通行できる、一定程度以上の明るさを確保することが必要です。
- 日常的には、過度に明るすぎない、柔らかな光を演出する照明であることが望ましいです。

河畔空間を歩く人の流れ

- 駅から犬山城へ向かう流れに沿って、眺望や空間の変化を検討する事が必要です。

●河畔空間で滞在することについて 滞在空間の設え

- イベント時に活用できるベンチ等の設置、さらにイスやテーブルを置いてくつろぐことができる空間を確保することが必要です。
- 河畔空間の整備に合わせて駐車スペースを確保することが望ましいです。



●河畔空間の歴史について 歴史を継承する

- 河畔空間には、常夜灯などのこれまでの歴史を物語るモノが多く残っており、それらを大事に残して、未来へ引き継いでいく必要があります。



●河畔空間の景観について 景色を楽しむ空間のあり方

- 照明の演出は犬山城や河畔の夜景を妨害しないよう照度、配置を工夫することが必要です。
- 連続する河畔空間において、視点が変化することで様々な景色を楽しむことができる場を確保することが必要です。

●河畔空間で楽しむ仕掛けやコンテンツについて 滞在時間を伸ばす工夫

- 普段は何もない空間に少しの仕掛けがあることで、人が立ち止まり、遊ぶ空間になることで滞在時間を伸ばすことが期待できます。
- 他のコンテンツ(飲食等)と組み合わせることでさらに滞在時間を伸ばすことが期待できます。
- 活動続けるためには、活動備品の保管場所を確保し、管理することが必要です。

活動の告知

- 活動・イベントを継続するためには、SNS等に投稿したくなるような風景をつくり出し、チラシの配布などを積極的に進めていくことが望ましいです。
- 活動者が自由に更新し、イベント内容を告知できるような看板を設置することが望ましいです。
- 城下町等の観光イベントと連携して、回遊性を高める仕掛けを検討することが必要です。



(2) 河畔空間整備の4つのテーマ

地域住民等との対話の場では出された意見・提案を踏まえ検討した結果、今後の河畔空間整備は4つのテーマにまとめることができました。今後はこのテーマに即した整備の在り方を検討することとします。

1. 水の流れと人の流れ

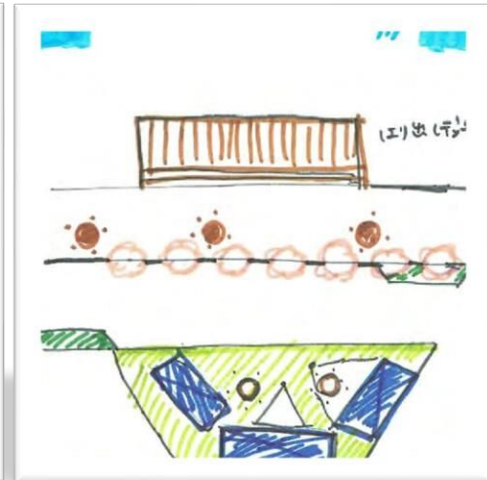
～安全安心に人やモノが移動できる空間づくり～

【主な機能・つかい方(案)】

- ・ 歩道を広げる、歩道を高くする
- ・ 車止めをおく
- ・ 歩道と車道の間を安全にする
- ・ 車道にはハンプを設けてスピードを抑制する
- ・ 自転車で来た時の置場をつくる
- ・ ツインブリッジなどの説明看板 等

【キーワード】

回遊性 流れ 動線 案内 通行



2. KISOGAWA TERRACE

～憩い、くつろぎながら滞在できる空間づくり～

【主な機能・つかい方(案)】

- ・ 朝陽、夕陽を眺めるテラス、川を眺めるテラス
- ・ ウッドデッキ、階段形状のベンチ
- ・ イスとテーブルを並べることでできる場
- ・ ゆったりと寝転べるベンチ
- ・ 週替わりのキッチンカー、おしゃれなカフェ
- ・ 朝市からの出店、夜楽しめるレストラン
- ・ 公園のような空間、たまり場
- ・ きれいなトイレ 等

【キーワード】

テラス 高台 滞在 交流



3. 緑と光の共存

～良好な景観資源や歴史を活かした空間づくり～

【主な機能・つかい方(案)】

- ・ 芝生を敷く
- ・ 桜を活かす、シンボルツリーを活かす
- ・ 歩道沿いに花を植え、緑化する
- ・ 暖色でオシャレな照明で夜を演出する
- ・ 等間隔に照明を並べる
- ・ ワイヤーフENSEの天板からテラス照明
- ・ かがり火のような柔らかい照明の演出 等

【キーワード】

緑 光 歴史 桜 景観 修景



4. 川辺で遊ぼう！

～多様なアクティビティが生まれる楽しい空間づくり～

【主な機能・つかい方(案)】

- ・ 魚釣りなどの川遊びできるゾーンをつくる
- ・ ビオトープをつくって自然を観察する
- ・ カヌーやボートの船着き場を設ける
- ・ 水辺に屋形ステージ、川床
- ・ 船上コンサート、遊覧船
- ・ 足湯
- ・ 映画鑑賞会、音楽鑑賞
- ・ ロッククライミング、ジップライン 等

【キーワード】

遊び 演出 コンテンツ 集客 仕掛け



第4章 河畔空間の整備のテーマと求められる機能

(3) 河畔空間整備で備えると良い機能・仕掛け

河畔空間の整備のテーマごとに、地域住民の意見や実証事業の検証を踏まえ、今後の河畔空間に必要、備えると良い機能や仕掛けについて整理します。

① 水の流れと人の流れ 【キーワード】回遊性、流れ、動線、案内、通行

■案内サイン



河畔空間周辺の観光資源や目的地までのルートをつかりやすくするための案内サインを設置することで、まちなかの回遊性を高め、その場の価値を発信することが期待されます。設置にあたり、歴史豊かな本市のイメージに合わせたデザインとなるような検討が必要です。

■駐輪スペース



ロードバイク等にも対応した駐輪スペースを確保することにより、自転車利用者も気軽に立ち寄れる空間となることを期待します。

■ハンプ・狭さく



一部区間では車道幅を狭くしたり、ハンプや狭さく等を設けたりすることで、速度抑制を図るなど自動車と歩行者が安心して通行できる空間が期待できます。

■カラー舗装



区域内の交差点については、歩行者が横断することを考慮し、安全対策に有効なカラー舗装等を施すことを検討します。

■自転車走行空間



車道の幅員を狭くする等の道路空間の再配分を検討するなかで、歩行者と共に自転車も安全に通行することができるよう自転車通行空間の確保を検討します。

■ボラード



車道と遊歩道の境界部は遊歩道への車両の進入を防ぐボラードを設置することにより、遊歩道が安全・安心な空間となることを期待します。

第4章 河畔空間の整備のテーマと求められる機能

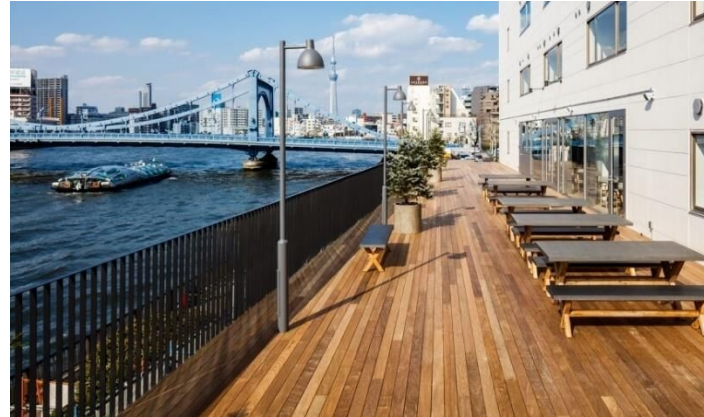
② KISOGAWA TERRACE 【キーワード】テラス、高台、滞在、交流

■ベンチ



河畔空間が憩いとくつろぎの場となるよう、また滞在時間が伸びるよう、ゆっくりとくつろげるベンチの設置は有効です。単に腰掛けるだけでなく、住民同士の対話や交流の場としても期待できます。

■テラス



憩いや活動の場等、様々な使い方が可能なテラスを設置することで、河畔を訪れる人々に自由な活動を促します。またテラスからの素晴らしい眺望を楽しんでいただくことも想定されます。

■建築施設(出店)



遊歩道内に商業機能をもつ建築施設を設置することで、河畔空間での滞在時間の延長や消費の拡大を期待します。

■テーブル・バーカウンター



遊歩道内で飲食等ができるよう、テーブルを設置することを検討します。また、木曽川を眺めることができる位置にカウンターを設置することで、親水性の高い河畔空間となることを期待します。

■遊具



健康に資する遊具を設置することで、河畔空間が憩いと健康づくりの場となり、多くの方の来訪が期待できます。

■たまり場



河畔空間において、周辺住民や観光客が憩うことができる空間を整備することで、様々な交流や活動が生まれることを期待します。

第4章 河畔空間の整備のテーマと求められる機能

③ 緑と光の共存

【キーワード】 緑、光、歴史、桜、景観、修景

■樹木



既存の高木は、将来も豊かな河畔の維持形成を考えた際、取扱いは慎重な検討が必要です。現状は樹木で眺望が得にくい一方、春は美しい花を咲かせており、今後は整備方針の検討が必要です。

■地被植栽



河畔空間内に必要に応じて芝生を施すなどにより、座ったり、寝転んだりしてくつろぎ、滞在を促すことができます。

■植栽帯・プランター



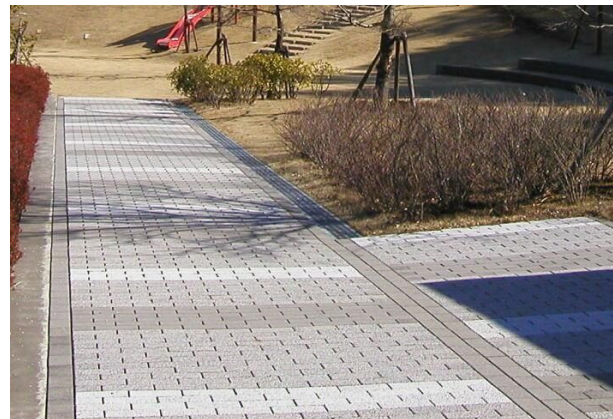
歩道の足元空間に彩りや潤いをもたらすため、プランターや植栽帯を設けることは、緑豊かな公園としての雰囲気演出に有効です。

■基本照明



既存の遊歩道空間は、照明が不足している箇所が多く、路線全体で同等の明るさを確保することができていないことから、夜間でも安心して歩くことができるような路面を照らす基本照明を等間隔で設置することを検討します。

■路面舗装



周囲の景観や雰囲気に合わせて、インターロッキング舗装等といった路面舗装を歩道に施すことは、高質な河畔空間の創出に有効です。

■演出照明



日常的に必要な基本照明に加え、夜の河畔空間においても多様な活動を引き起こす空間演出としての照明を施すことにより、河畔の魅力を引き上げ、人を惹きつける効果を期待します。

第4章 河畔空間の整備のテーマと求められる機能

④ 川辺で遊ぼう！ 【キーワード】遊び、演出、コンテンツ、集客、仕掛け

■キッチンカー・テント



マルシェ等のイベントや地域住民による活動ができるよう、歩道内にキッチンカーやテント等を設置できる空間の確保を検討します。

■看板



活動者によって内容を更新できる看板を設置することにより、イベント等の告知ができる仕掛けとして整備することを検討します。

■ステージ・音響設備



遊歩道内に発表等を行うことができるステージや音響設備を設置することで、河畔空間において様々な活動が生まれることを期待できます。

■電源



イベント時に必要となる電源を設置することで、日常的な河畔空間の活用を期待します。

■倉庫・物置



活動に必要な備品等を収納する倉庫や物置を設置することで、継続的に河畔空間が活用されることを期待します。

■足湯

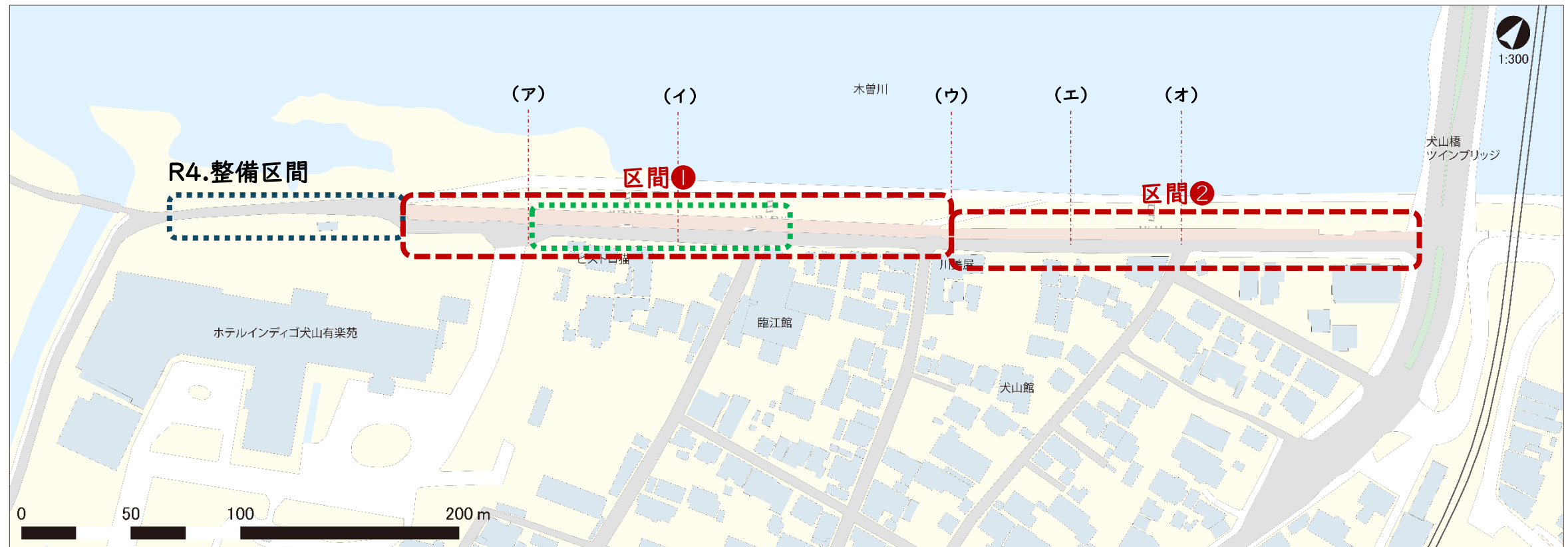


木曽川や犬山城を眺めながら、ゆったりとくつろぐことができる空間形成のために、足湯の設置を検討します。

第5章 河畔空間の整備構想

(1) 整備の考え方① 河畔空間構造の検討

河畔空間の整備の検討では、遊歩道や車道の断面構成等の河畔空間の構造を読み解いて、整備すべき方向性を整理する必要があります。本基本構想における対象範囲を2つの区間にゾーン分けを行い、その特徴を整理して、河畔空間整備のあり方を検討します。



区間①【区間長:約240m】

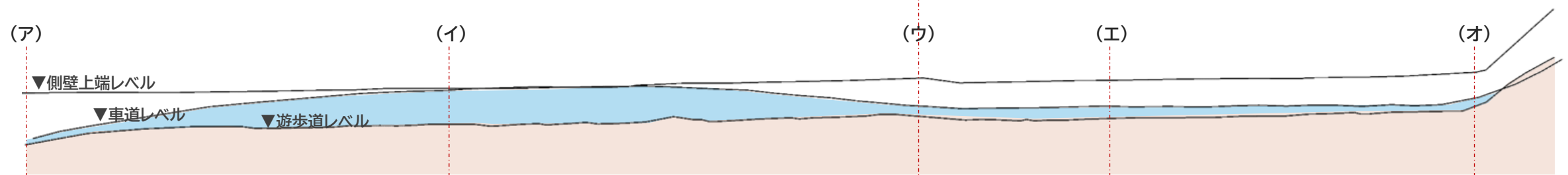
民宿・川美屋前からホテルインディゴ犬山有楽苑前までの区間については、車道が遊歩道よりも高く、高低差がある馬の背状に膨らんでいる道路構造となっています。

区間②【区間長:約220m】

ツインブリッジから民宿・川美屋前までの区間については、車道と遊歩道は概ね同じ高さとなっており、高低差が小さい道路構造となっています。

道路断面概略図

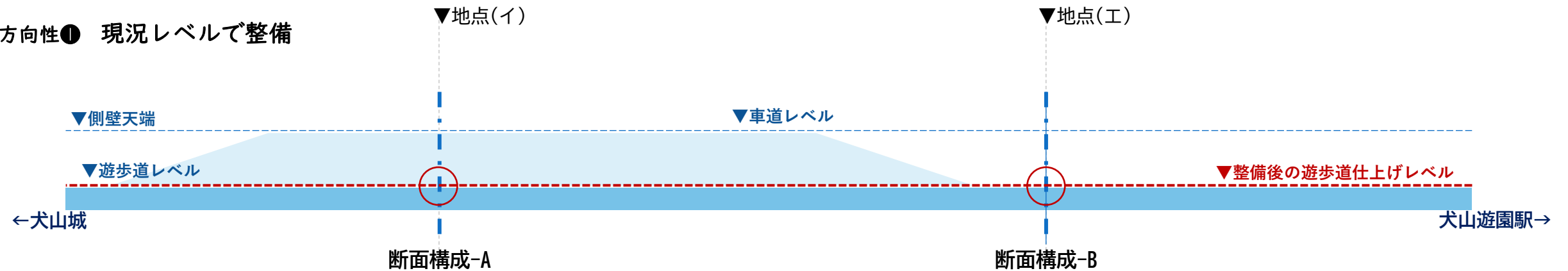
(※縦横比を1/10にした模式図)



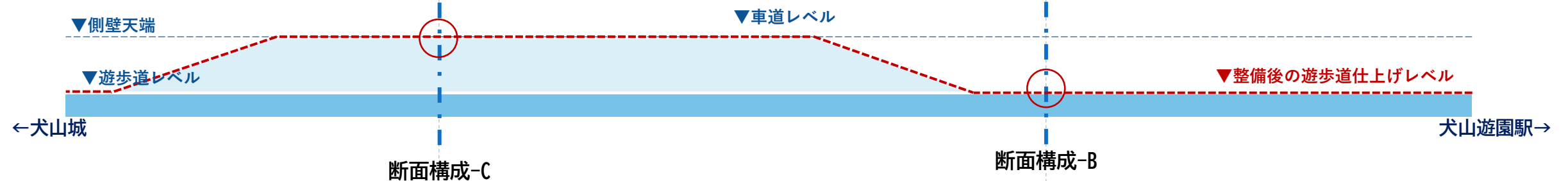
第5章 河畔空間の整備構想

現況の遊歩道と車道の高さが変化しながら連続している現在の河畔空間の特徴を踏まえ、河畔空間構造の視点に基づき、整備の方向性を整理します。遊歩道の整備する仕上げ高さ(レベル)について、その違いにより下図のモデル化のとおり、大きく3つの方向性に整理することができます。地点(イ)と地点(工)また、遊歩道と車道の高さ関係に着目した道路横断面の関係性でみると、断面構成-AからDまでの4つの断面構成に整理されます。

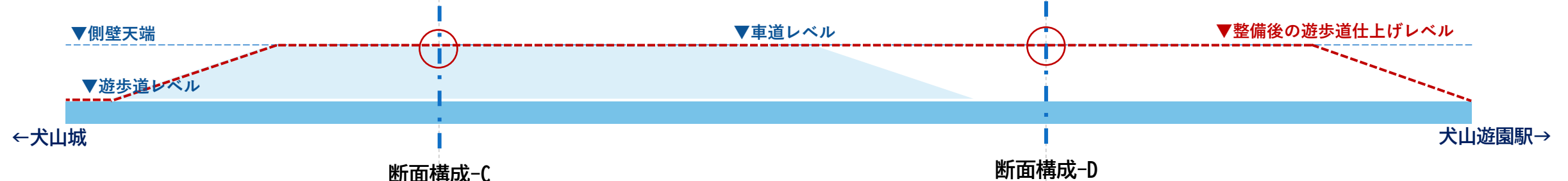
方向性① 現況レベルで整備



方向性② 車道と遊歩道のレベルを合わせて整備

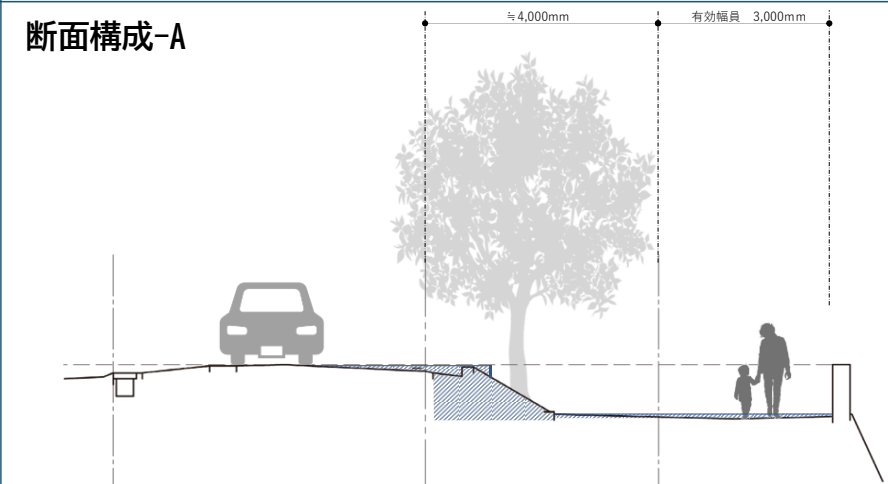
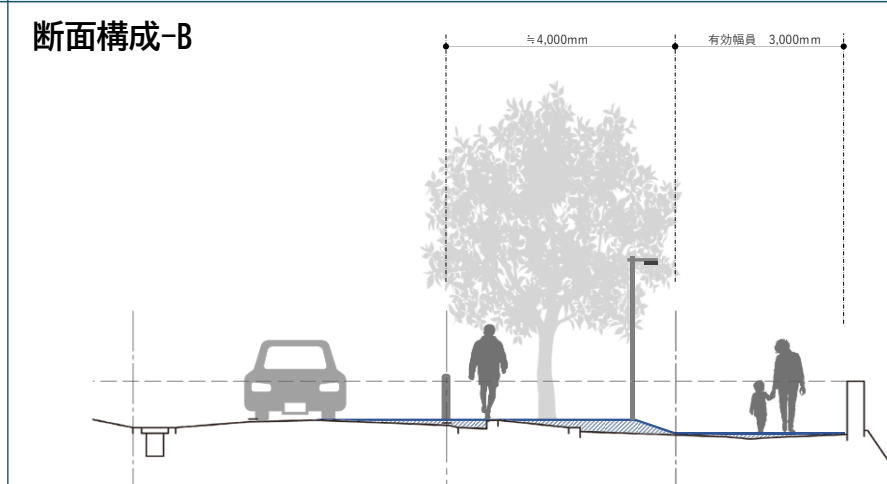
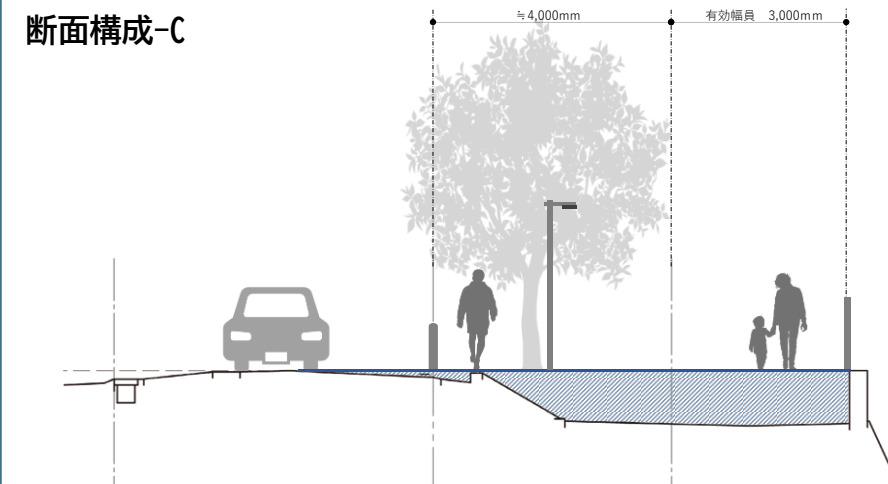
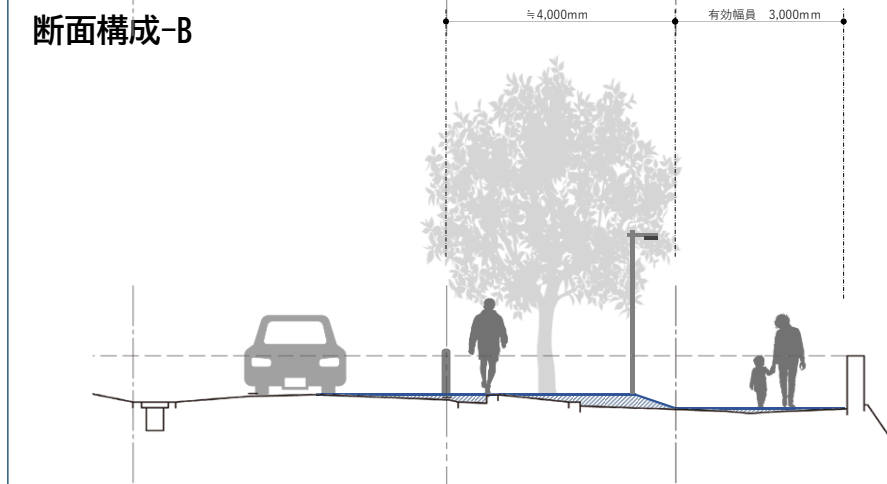
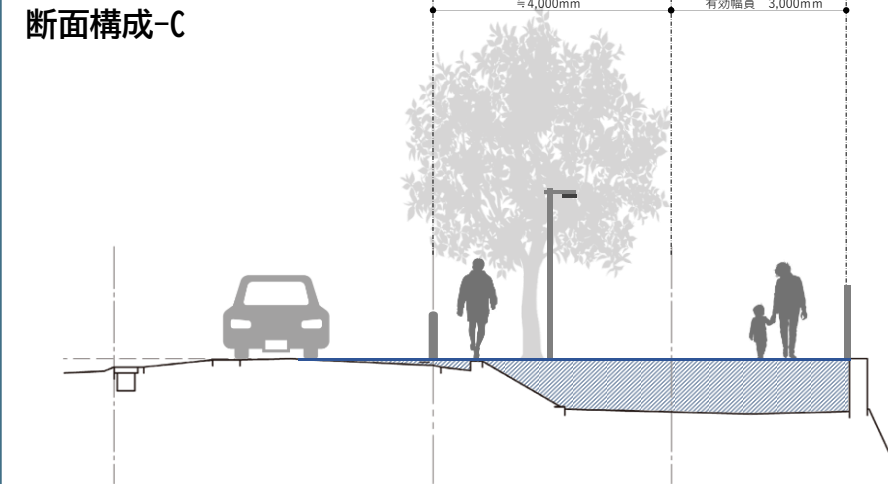
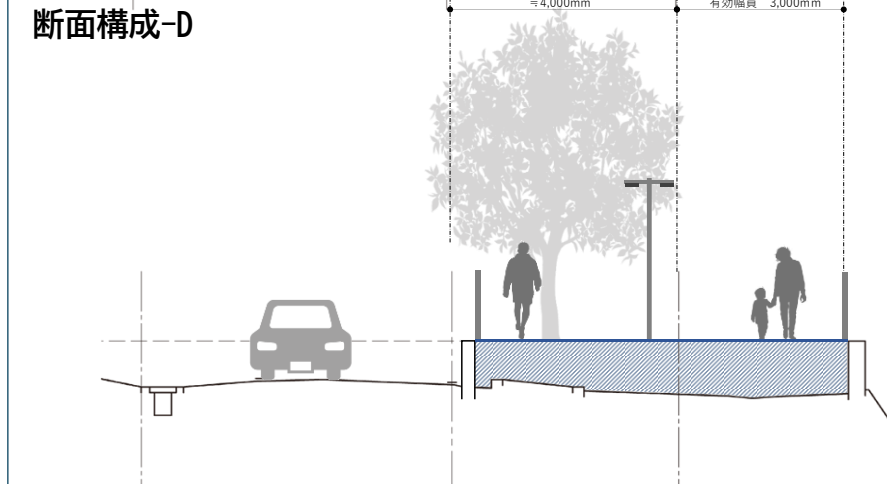


方向性③ 遊歩道を側壁天端レベルに合わせて整備



第5章 河畔空間の整備構想

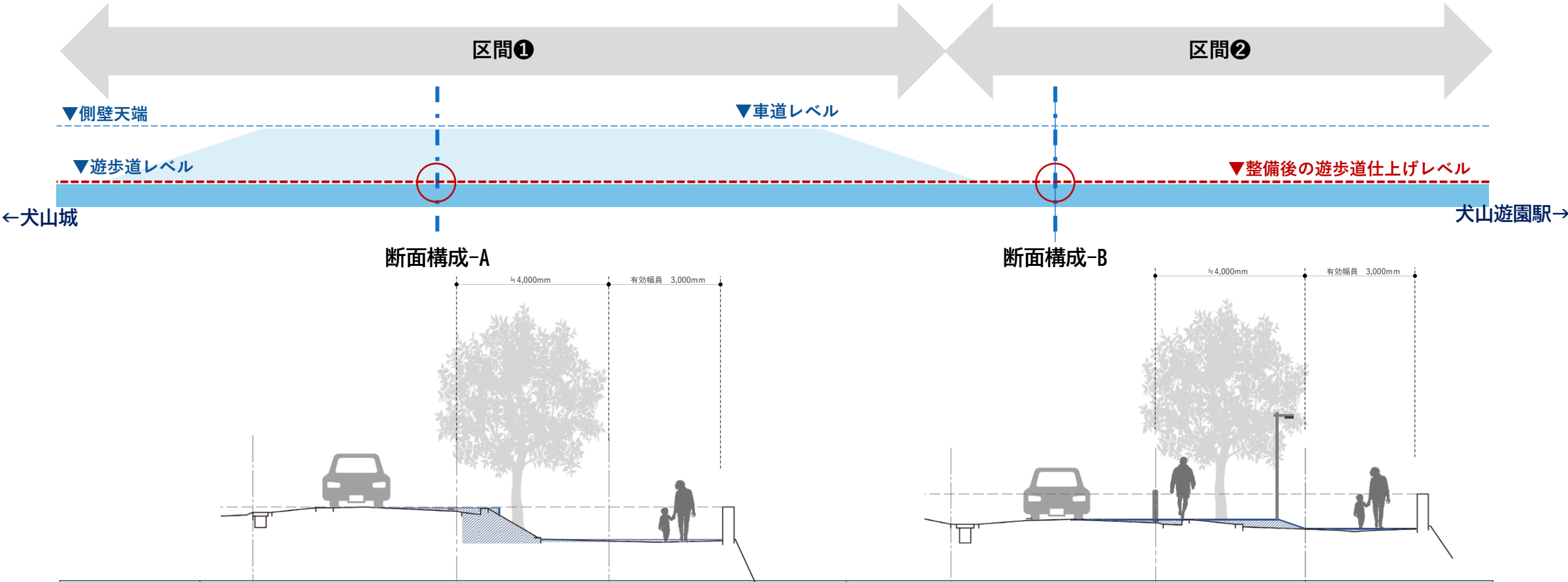
道路構造の高さの違いを踏まえた、整備における仕上げ高さの違いによる整備の方向性に基づき、断面構成Aから断面構成Dの4つに整理することができます。

	▼地点(イ)	▼地点(工)
方向性① 現況レベルで 整備	断面構成-A 	断面構成-B 
方向性② 車道と遊歩道の レベルを合わせ て整備	断面構成-C 	断面構成-B 
方向性③ 遊歩道の側壁天 端レベルに合わ せて整備	断面構成-C 	断面構成-D 

第5章 河畔空間の整備構想

方向性① 現況レベルで整備

現状の空間を活かした整備の方向性です。
区間①では、遊歩道に比べ車道は高く、歩く場所によって視点の高さが異なります。区間②では、遊歩道と車道は緩やか勾配でつながり、ほぼ平坦であり、遊歩道は区間①から区間②にかけて高低差がなく連続します。



	メリット	デメリット
通行空間の視点	区間全体で遊歩道の高低差が小さく平坦であり歩きやすい。	区間①では、車道と遊歩道に高低差が生じるため、階段やスロープ等を設けることが必要となる。
滞在空間の視点	- 遊歩道と車道が空間として分離されているため、滞在スペースとしては囲われ落ち着いて滞在あるいは活動をすることができる。 - 現況のレベルで歩道整備を行うため、工法は他に比べて容易であり事業費も安価となると想定。	- 通行する上での最低限の幅員を確保しようとすると、十分に活用できる空間の余地が小さい。 - 常設店舗の設置について一部盛土するなど工夫が必要。

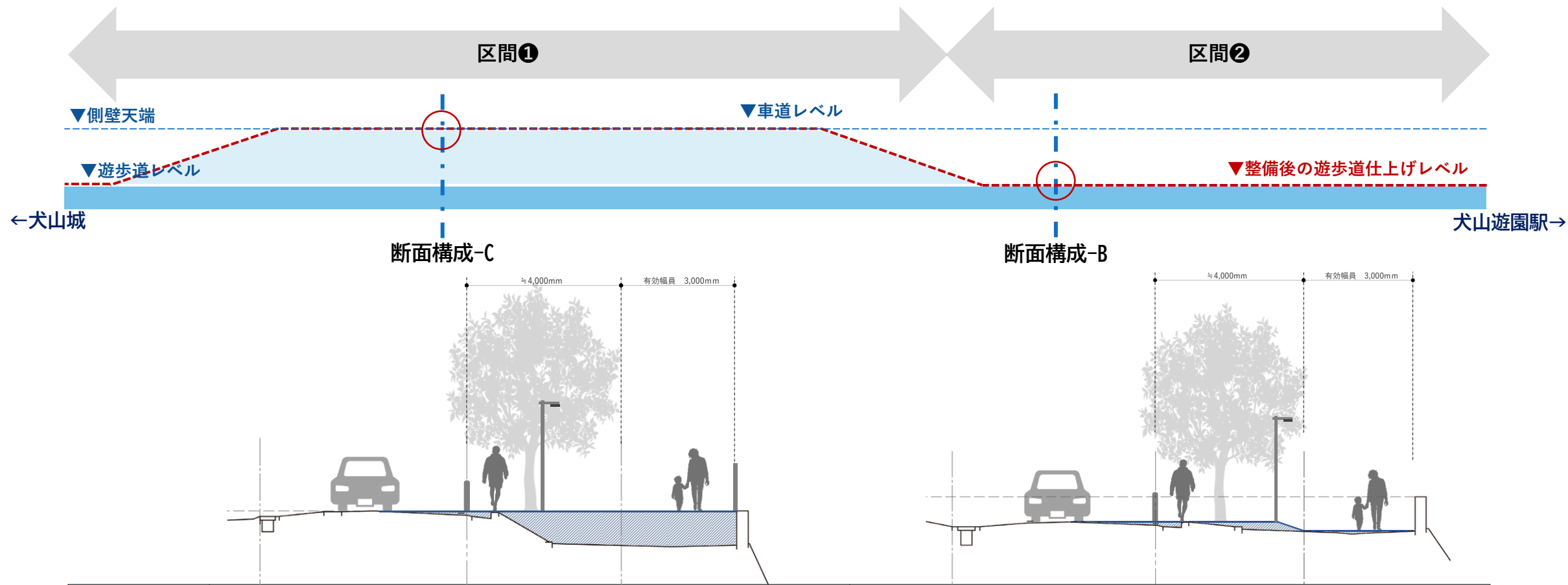
第5章 河畔空間の整備構想

方向性② 車道と遊歩道のレベルを合わせて整備

車道と遊歩道のレベルを合わせることで、一体感ある空間を創り出す整備の方向性です。

区間①では、遊歩道は現況からかさ上げをすることで、車道と同じ高さになり、開放的で車道と一体的に活用することができます。

区間②は、方向性①と同様に、遊歩道と車道は緩やか勾配でつながりますが、現況に比べて、遊歩道は高低差のある連続した空間となります。

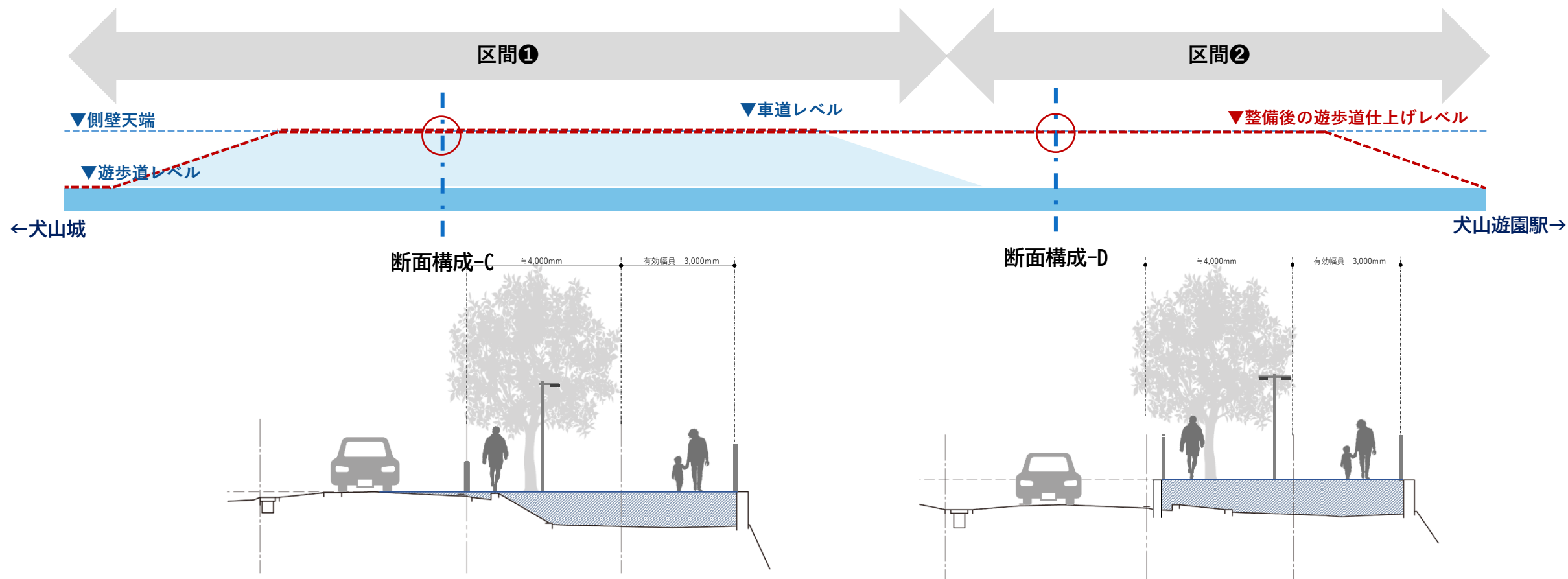


	メリット	デメリット
通行空間の視点	● 車道と一体的な空間となるため、広く開放的な通行空間を確保することができる。	● 遊歩道は車道と同じように、馬の背状の高低差が生じることになるため、歩道がフラットでなくなる。勾配によっては手摺設置等の措置が必要。
滞在空間の視点	● 車道と一体的な空間となるため、広く開放的な滞在空間を確保することができる。 ● 盛土した箇所については店舗設置空間と歩行空間をどちらも確保しやすい。	● 民地側からすると、視界の先に滞在空間が広がるため、視界が遮られる場合がある。 ● 一部区間を盛土するため、施工方法について十分な検討が必要。 ● 方向性①に比べ工法が厳しく事業費も高くなる想定。

第5章 河畔空間の整備構想

方向性③ 遊歩道を側壁天端レベルに合わせて整備

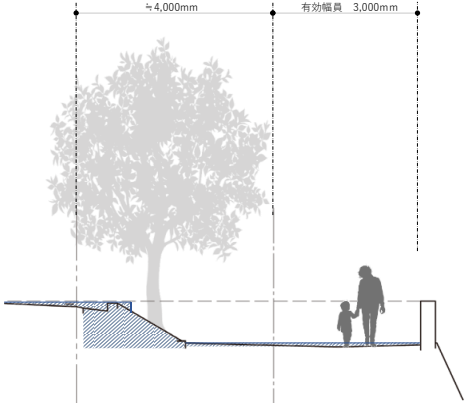
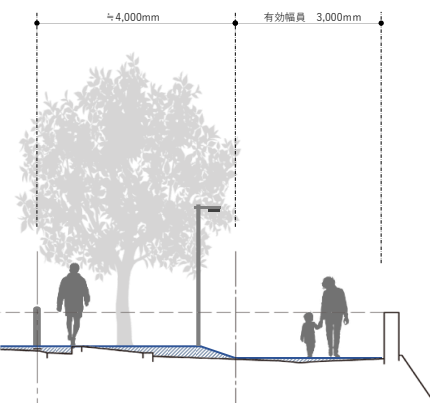
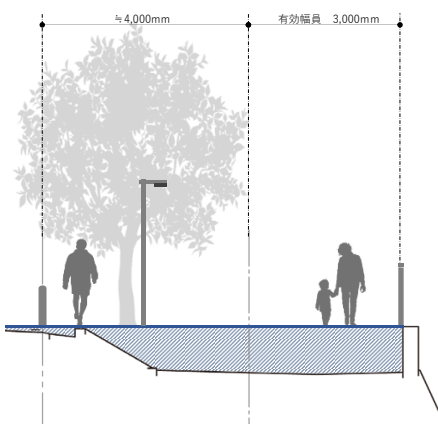
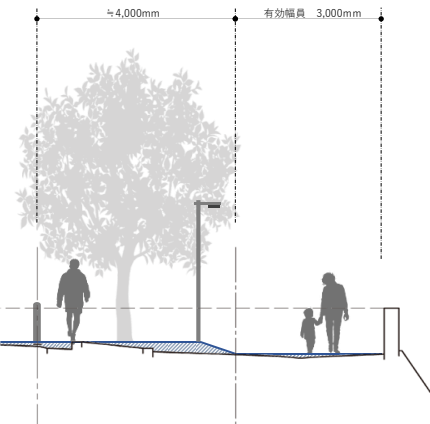
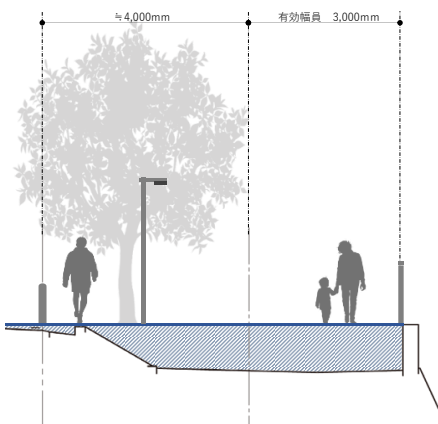
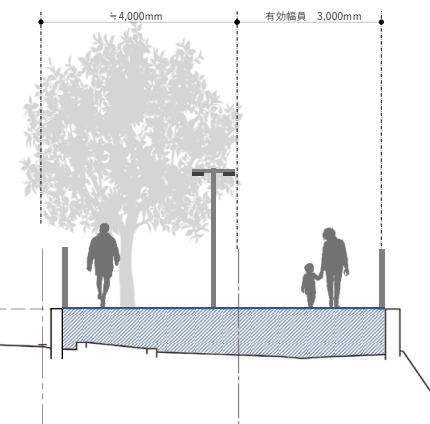
遊歩道のレベルを、均一に側壁(パラペット)に合わせて整備することにより、歩道空間の開放性を高める整備の方向性です。
区間①から②において、遊歩道は現況高さから、かさ上げすることになります。区間①は、車道と同じ高さで一体性がうまれますが、区間②では、遊歩道が車道よりも高くなり、現況とは高低差が逆転する状況となります。



	メリット	デメリット
通行空間の視点	● 車道と一体的な空間となるため、広く開放的で、また高低差のない通行空間を確保することができる。	● 区間の起点及び終点で現況にすり合わせるため、階段やスロープ等を設置する区間が必要となる。
滞在空間の視点	● 車道と一体的な空間となるため、広く開放的な滞在空間を確保することができる。 ● 増水時に備えるという観点では、治水上護岸が強化され災害に対する安全度が高まる。	● 道路と歩道の高低差が逆転する箇所が生じ、民地側からみた眺望が悪くなる可能性がある。 ● ほぼ全区域を盛土するため、施工方法について十分な検討が必要。 ● 方向性①②に比べ工法が難しく事業費は最も高くなる想定。

第5章 河畔空間の整備構想

■方向性①から③の比較検討整理

	断面構成		空間整備の進め方	整備における概算事業費
	区間①	区間②		
方向性①	断面構成-A 	断面構成-B 	現況を残すことを基本とした整備であり、舗装の再整備を中心としつつ、区間①では、車道と遊歩道の高低差を処理する階段やスロープが必要となる。	3つの方向性のなかでは、最も事業費は低い。
方向性②	断面構成-C 	断面構成-B 	区間①は車道に合わせるための盛土工事に合わせ、現況の側壁(パラペット)に負荷を与えないための擁壁工事、既存樹木の伐採等が必要となる。	3つの方向性のなかでは、事業費は中程度である。
方向性③	断面構成-C 	断面構成-D 	区間①は車道に合わせるための盛土工事に合わせ、現況の側壁(パラペット)に負荷を与えないための擁壁工事、既存樹木の伐採等が必要となる。 また、区間②も同様に盛土工事に加え、車道側にも擁壁あるいは法面での処理が必要となる。	3つの方向性のなかでは、最も事業費は高い。

(2) 整備の考え方② 河畔空間の設えの検討

河畔空間の整備を考える上では、空間構造とともに、空間を仕上げる設えの検討をする必要があります。これまでの検討で整理された、河畔空間整備で備えると良い機能・仕掛けを基にして、法令等の規制の困難性の視点や、整備に必要な事業費の視点から、実現可能性を整理すると下表のように整理することができます。ここでは、空間を構成する要素を質と量の違いから、3つの構成要素に整理します。

		大 実現可能性（法規制上の視点、整備費用の視点） 小		
河畔空間整備のテーマ	(1) 水の流れと人の流れ	案内サイン 駐輪スペース ボラード	ハンプ・狭さく 路面舗装	自転車走行空間
	(2) KISOGAWA TERRACE	ベンチ・スツール 仮設店舗	テラス テーブル 常設店舗	遊具 常設店舗を連担
	(3) 緑と光の共存	地被植物 樹木 路面舗装 基本照明	植栽帯	演出照明
	(4) 川辺で遊ぼう！	電源 活動案内看板	倉庫 音響設備	足湯
		空間構成要素A		
		空間構成要素B		
		空間構成要素C		

(3) モデルプランによる比較検討

河畔空間の整備の考え方について、空間構造の視点による3つの方向性と、設えの視点による3つの空間構成要素で整理をしました。さらに、空間構造と設えの組み合わせにより、木曽川河畔空間の基本構想として9つの案を整理します。

ここでは、あくまでも構造と設えの違いから整備パターンを整理したものであり、河畔空間の状況に応じたプランニングにより、検討していく必要があります。そこで、9つの案のうち、代表的なプランをモデルプランとして具体的な検討を行い、比較検討することにより、今後の整備のあり方を検討します。

		整備の考え方② 空間の設えの視点による整備の方向性		
		空間構成要素A	空間構成要素B	空間構成要素C
整備の考え方① 空間構造の視点による整備の方向性	方向性案①	基本構想案-A →モデルプラン①	基本構想案-B	基本構想案-C
	方向性案②	基本構想案-D	基本構想案-E →モデルプラン②	基本構想案-F
	方向性案③	基本構想案-G	基本構想案-H	基本構想案-I →モデルプラン③

概算事業費 約6.96億円～14.2億円

※上記はあくまで現時点での概算費用であり、今後施工方法等を検討、決定した際には再積算が必要です。

第5章 河畔空間の整備構想

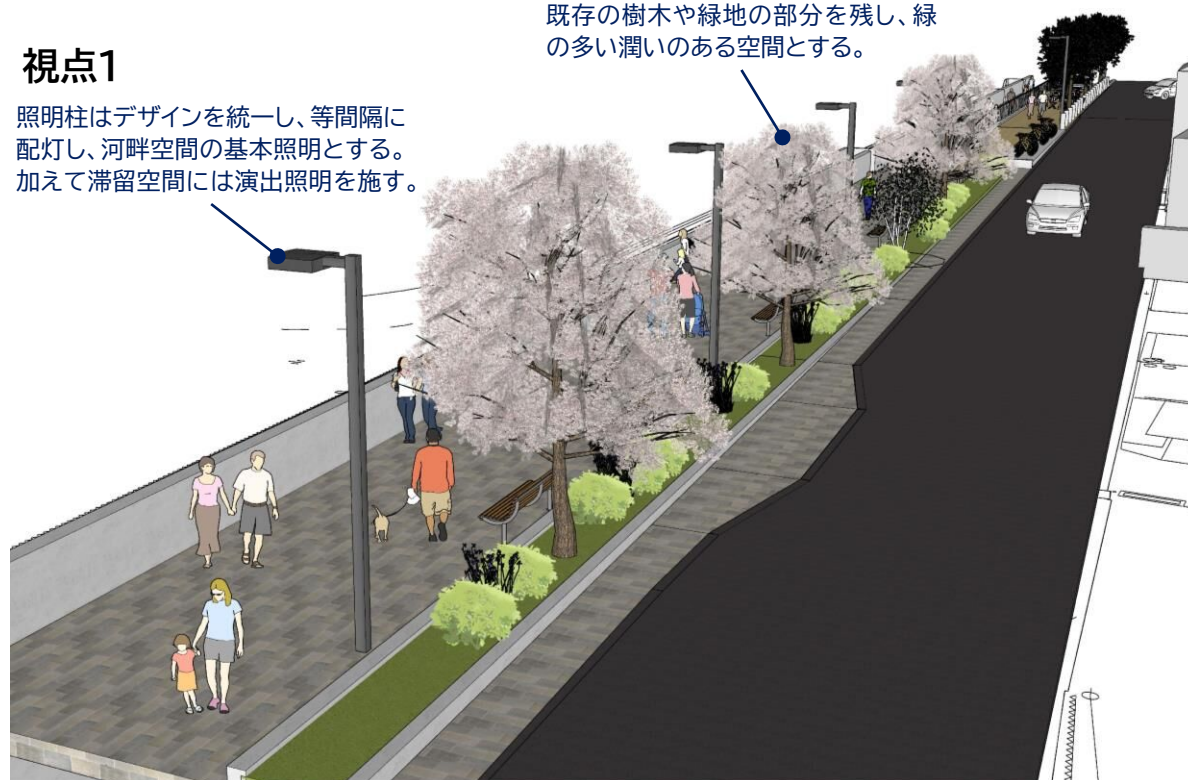
※本プランはR4年度の検討を図に示したものであり、決定したものではありません。

【モデルプラン①】 ～高低差を活かした空間づくり～

視点1

照明柱はデザインを統一し、等間隔に配灯し、河畔空間の基本照明とする。加えて滞留空間には演出照明を施す。

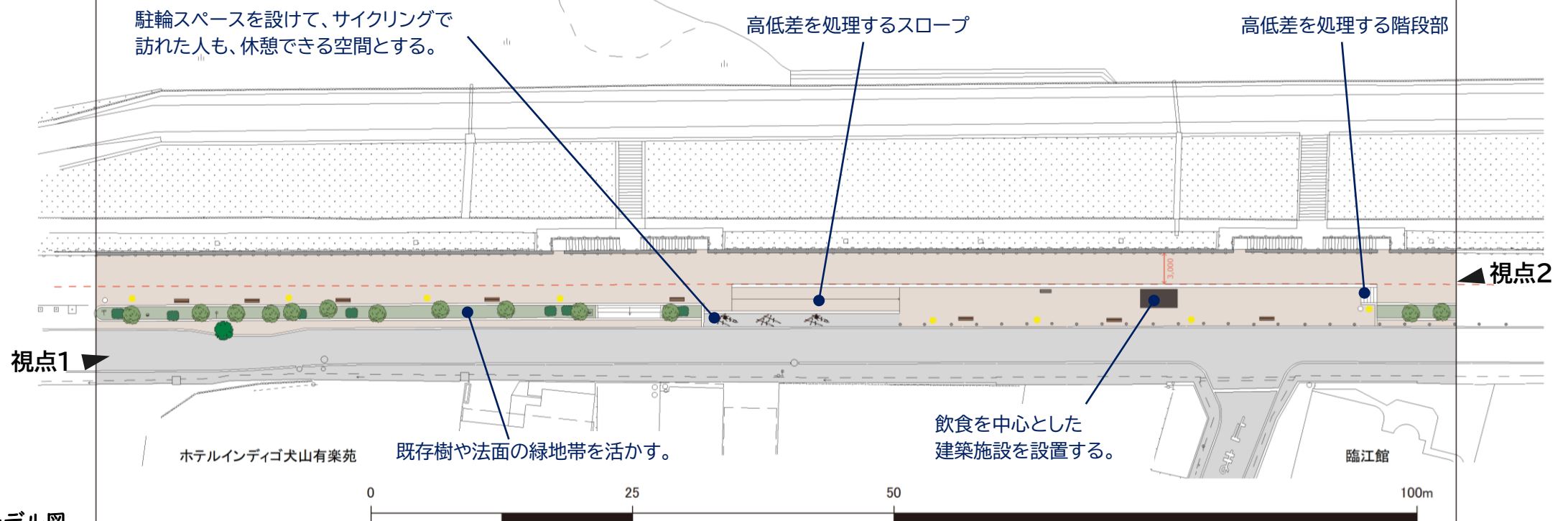
既存の樹木や緑地の部分を残し、緑の多い潤いのある空間とする。



視点2

既存の高低差を残しながらも、一部は車道と同じ高さで広がりのある空間を設け、店舗等の設置により滞在できる空間とする。

仮設店舗は、高低差を活かし、視線の高さの違いにより、室内から歩行者を気にせず川を眺めることができる。



平面計画モデル図

第5章 河畔空間の整備構想

※本プランはR4年度の検討を図に示したものであり、決定したものではありません。

【モデルプラン②】 ～高低差を解消した空間づくり～

視点1

遊歩道の高さを上げることで、新たに川側の柵を設け、透過性のあるもので、視界を遮らないことに配慮する。

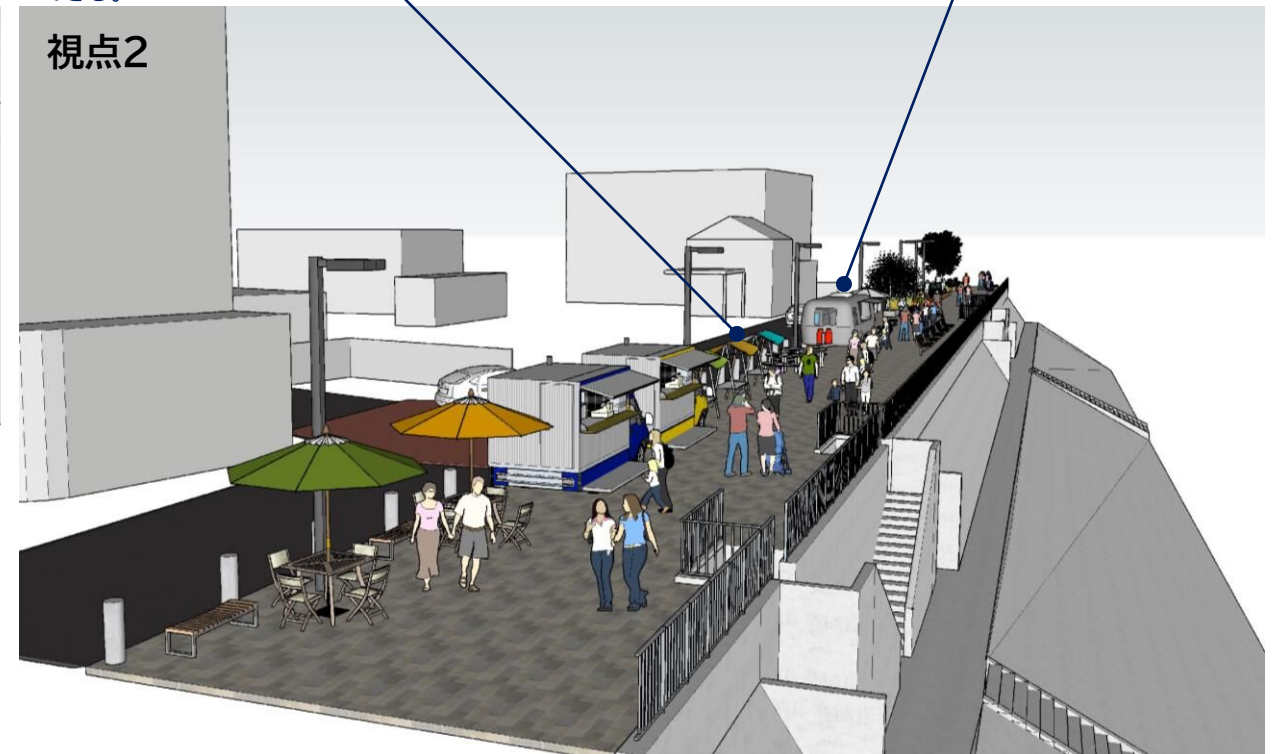
車道の一部に狭さく部を設けることにより、車の速度抑制とゆとりある通行空間を確保する。



視点2

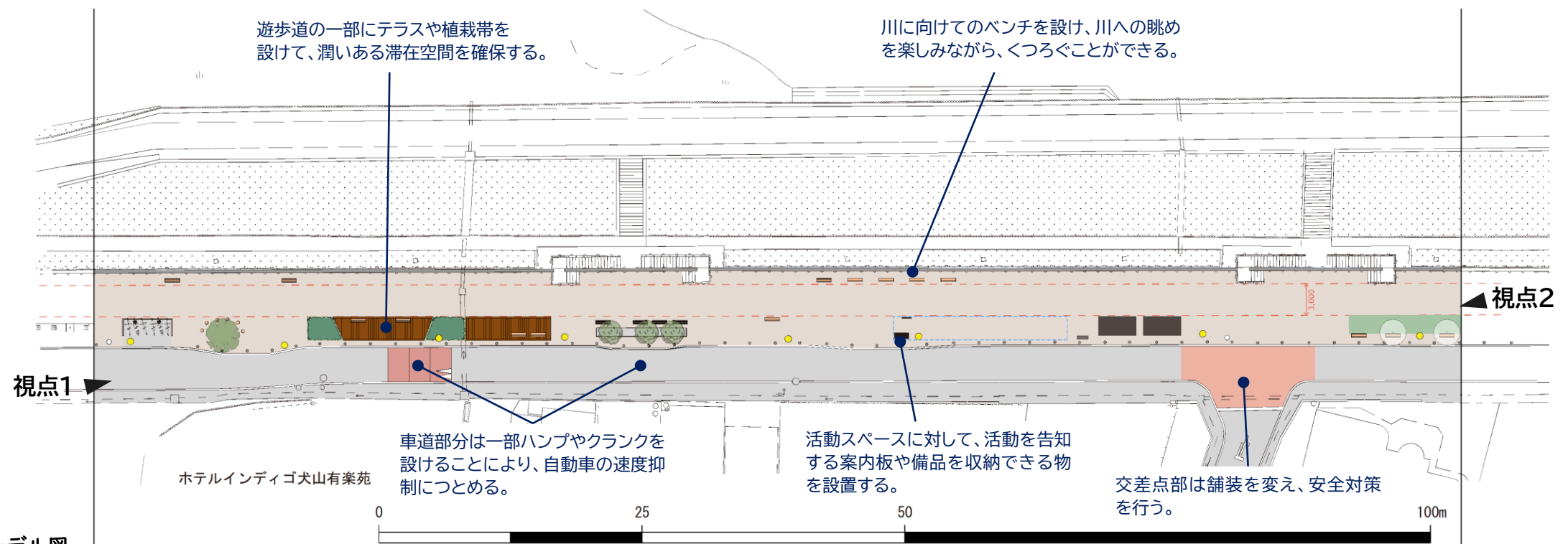
高低差をなくし、車道と同じ高さで一体的な空間とすることにより、歩道空間は広がりある様々なアクティビティを誘発する空間に転換できる。

常設施設を配置し、遊歩道から気軽に利用することができる。



遊歩道の一部にテラスや植栽帯を設けて、潤いある滞在空間を確保する。

川に向けてのベンチを設け、川への眺めを楽しみながら、くつろぐことができる。



視点1

視点2

車道部分は一部ハンプやクランクを設けることにより、自動車の速度抑制につとめる。

活動スペースに対して、活動を告知する案内板や備品を収納できる物を設置する。

交差点部は舗装を変え、安全対策を行う。

平面計画モデル図

【モデルプラン③】 ～高低差を解消し、変化ある空間づくり～

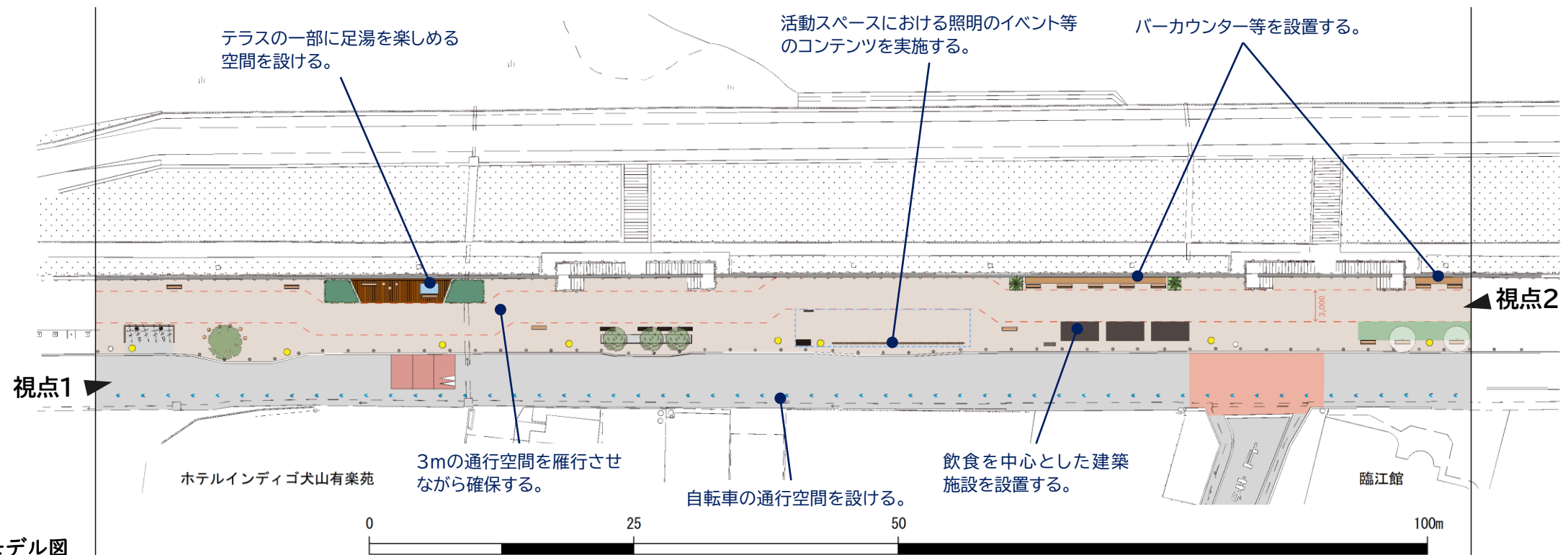
視点1



視点2



遊歩道の川側にバーカウンターを設置して、足を止めてくつろぐスペースを設ける。



平面計画モデル図

第5章 河畔空間の整備構想

参考事例

高低差のある遊歩道	川沿いのにぎわい施設(コンテナ)	水辺のオープンカフェ
和歌山県和歌山市	岩手県盛岡市	広島県広島市
  	  	 

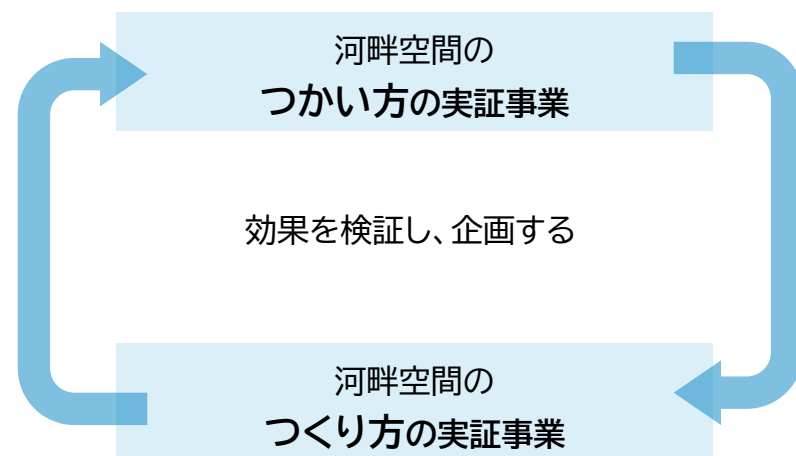
第6章 今後の整備に向けて

(1) 施工方法の検討・決定

本構想案作成の成果を踏まえ、引き続き関係機関との協議・検討を進めます。また、現時点では遊歩道（河川堤防）の構造が十分に把握できていないことから、構造等の調査が必要となります。その上で、快適な河畔空間形成に適切な施工方法を決定します。

(2) 実証事業の継続的な実施

令和4年度に実施した実証事業で得た知見や課題を踏まえ、今後も継続的に、河畔空間の「つかい方」と、河畔空間の整備の方向性である「つくり方」を模索するための実証事業を進めます。実証事業を経て木曽川河畔空間にとって本当に必要な「機能」を見出します。



R4年度の実証事業から 次年度以降の実証事業への課題出し

- 実施内容の選定・検討(必要な機能の検討)
- 行政、住民、関係団体等の連携体制の構築、役割分担
- 準備する期間の確保
- 開催する時期
- 活動する資金あつめ
- 活動の告知方法
- 活動する仲間づくり
- など

参考事例

北浜テラス（大阪市）

土佐堀川左岸沿いに位置する地先利用型のオープンカフェです。2007年、3つのNP0の提案に賛同したビルオーナーが模擬実験を実施。2008年には水都大阪2009実行委員会の支援もあり、河川敷地に仮設式の川床で1カ月だけの社会実験としてスタートし、期間中2,000名以上の人々が訪れ好評を博しました。2009年には再度社会実験を行いながら地域活性化を進め、北浜水辺協議会を設立。同年8月からは水都大阪2009のプログラムの1つとして実施されました。



北浜テラス

おとがワ！ンダーランド（岡崎市）

2015年の「かわまちづくり」支援制度への登録や河川敷地占用許可準則における都市・地域再生等利用区域を契機に、水辺活用や周辺のまちづくりへの取組がはじめられ、2016年からは「おとがワ！ンダーランド」と標した社会実験が開始されています。この社会実験は河川敷の使いこなしや日常的な活用促進を目的としています。全体的なマネジメントを地域のNP0に任せ、期間中にプログラムを実施する団体を複数公募し、様々な事業を行いました。



おとがワ！ンダーランド2016

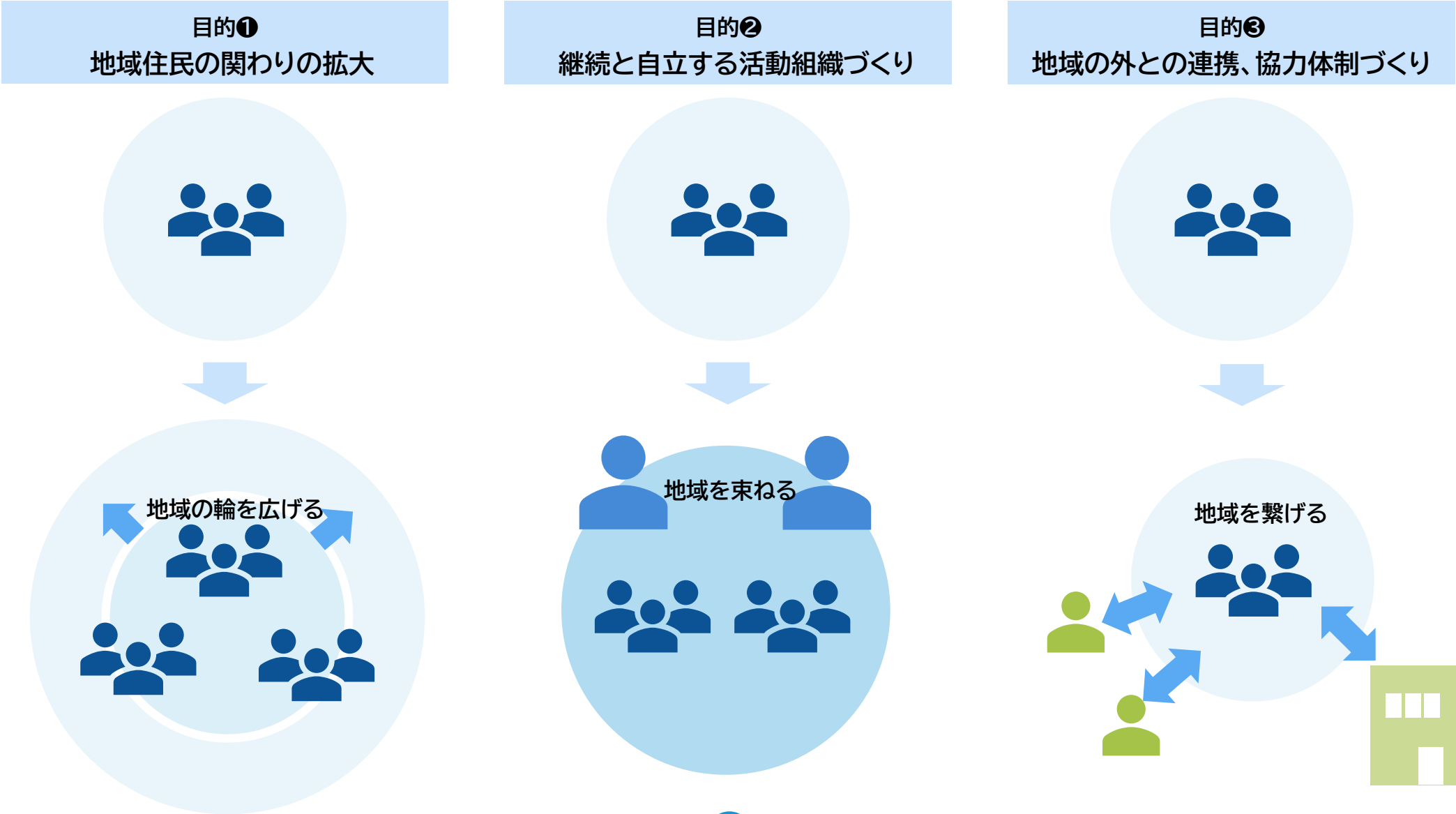
第6章 今後の整備に向けて

(3) 継続的な住民参加のプログラム実施

地域住民等が参画する対話の場については、今後も木曽川河畔空間のあり方や必要な機能、仕組みを語り合い、実践する場として継続して開催する必要があると考えます。

持続可能で活気ある河畔空間の形成には、行政だけでなく多くの地域住民や関係者と一緒になって検討し進めていくことが重要であるからです。参画の輪が広がることで、住む人も来る人も、多くの人にとって憩いと活躍ができる「大切な場所」になることを期待します。また、滞在を促し、宿泊を増やし、消費を高めるという、犬山市観光戦略が目指す姿の実現にも繋がるものと考えます。

参画プログラム（対話の場の設定）を継続することで、これまでの参加者に加え地域住民の輪を広げ、より多くの参加者の受け皿として機能します。また継続した対話や実践によって、地域住民の皆さんが憩い、活躍できる場となるよう地域が一体となって活動に取り組むことも期待できます。そして地域住民に加え、自ら主体的かつ意欲を持って活動するプレイヤーや民間事業者との連携・協力を得る機会に繋がっていくことも期待します。



第6章 今後の整備に向けて

(4) 河畔空間の管理について

河畔空間の整備を終えた後には、憩いの活躍の場であるとともに、消費を高めるため、商業的な賑わいも重要となります。地域住民、民間事業者、行政、地域団体等、関係者が連携した上で、それぞれが望む利活用方法や役割を捉え整理し、持続可能な観光まちづくりを進める必要があります。良好な管理手法として、今後河川敷地占用許可準則に基づく区域指定や管理団体認定の仕組みを国とも連携して研究・活用し、エリアマネジメントを意識した活用手法を検討します。

※エリアマネジメント…地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者などによる主体的な取り組み

(5) 整備による効果等について

木曽川河畔空間を整備することで、多くのメリットが考えられます。河畔整備によって、城下町に集中する多くの観光客を河畔に呼び込み、エリアでの分散化を図ることが期待されます。また、古い町並みの城下町に加え、雄大な木曽川河畔空間と国宝犬山城の素晴らしい景観を楽しむことができる、古くて新しい観光スポットが実現します。合わせて、公共空間の整備により新たな店舗等の出店も期待できます。

これら良好な河畔空間が犬山観光に加わることで、観光地としての魅力が向上し、市域内での回遊性を高めることができます。この結果、滞在時間が伸び、宿泊者数が増え、消費が高まるという経済の好循環が期待できるものと考えます。また、市民の皆さんにとっても憩い、楽しみ、活躍できる場として機能し、大切な場所になることを期待します。木曽川河畔整備の結果、エリアマネジメントの手法も活用することで、来る人も住む人も楽しく満足できる、持続可能な観光まちづくりの実現に寄与するものと考えます。

第6章 今後の整備に向けて

(6) かわまちづくり計画の策定について

『かわまちづくり』とは「河川空間」と「まち空間」が融合した、『良好な空間形成を目指す取組み』のことです。

今後の木曽川河畔空間の整備を進める上では、遊歩道に加え、堤防下側に広がる河川空間なども一体的に、魅力的な空間へと再整備することも検討する必要があります。
今後は、国とも連携・協議を進め、必要な時期も見据えながら「かわまちづくり計画」の作成を検討します。

■「かわまちづくり」で実現できること

○地域の交流機会の増加

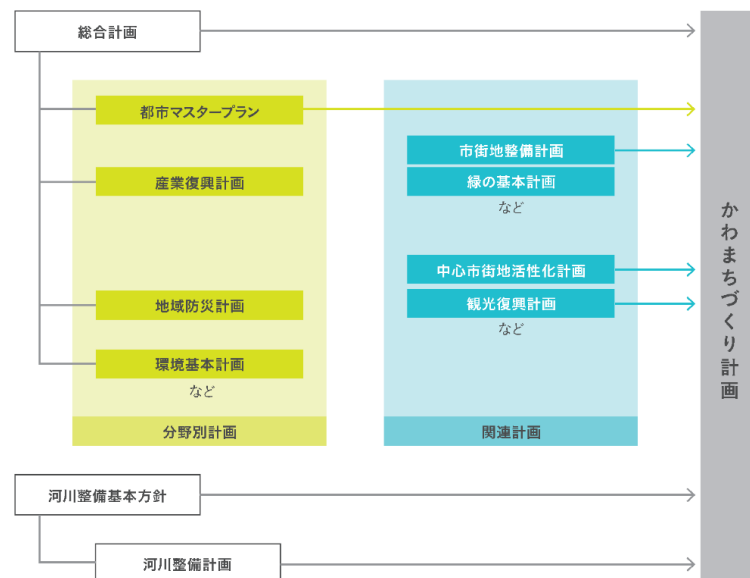
水辺の利活用を通じて、地域の交流の機会や場の創出が期待されます。

○観光客の増加

遊覧船やサイクリング、また水辺のオープンカフェや水上アクティビティなどを通じ、歴史や生態系、また癒やしや賑わいなどの「かわ」だからこそ得られる機会を提供することで、観光客数の増加が期待されます。

○地域ブランドの向上

地域特有の魅力を持つ「かわ」と「まち」が一体となることで、他の地域には無い新たな価値が創造され、犬山城から木曽川河畔空間一体のエリアの認知度の向上が期待されます。



かわまちづくり計画と市町村計画の関係図(例)



カヌー・SUP



環境学習・自然体験



キャンプ・バーベキュー



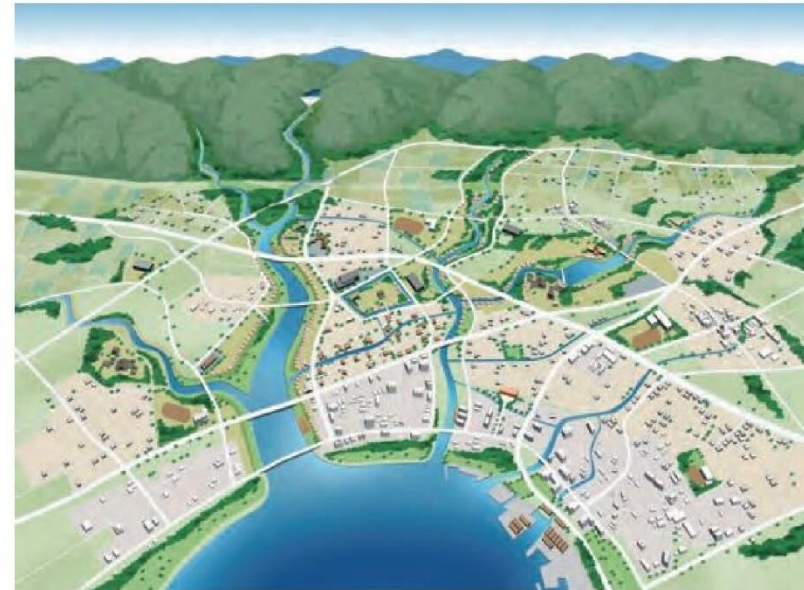
ウォーキング・ジョギング



サイクリング



観光舟運



イベント(アート、上映会)



マルシェ・朝市・夜市



集客施設



オープンカフェ



隣接施設連携(公園、道の駅)



市街地開発



川床



桜並木



公園広場



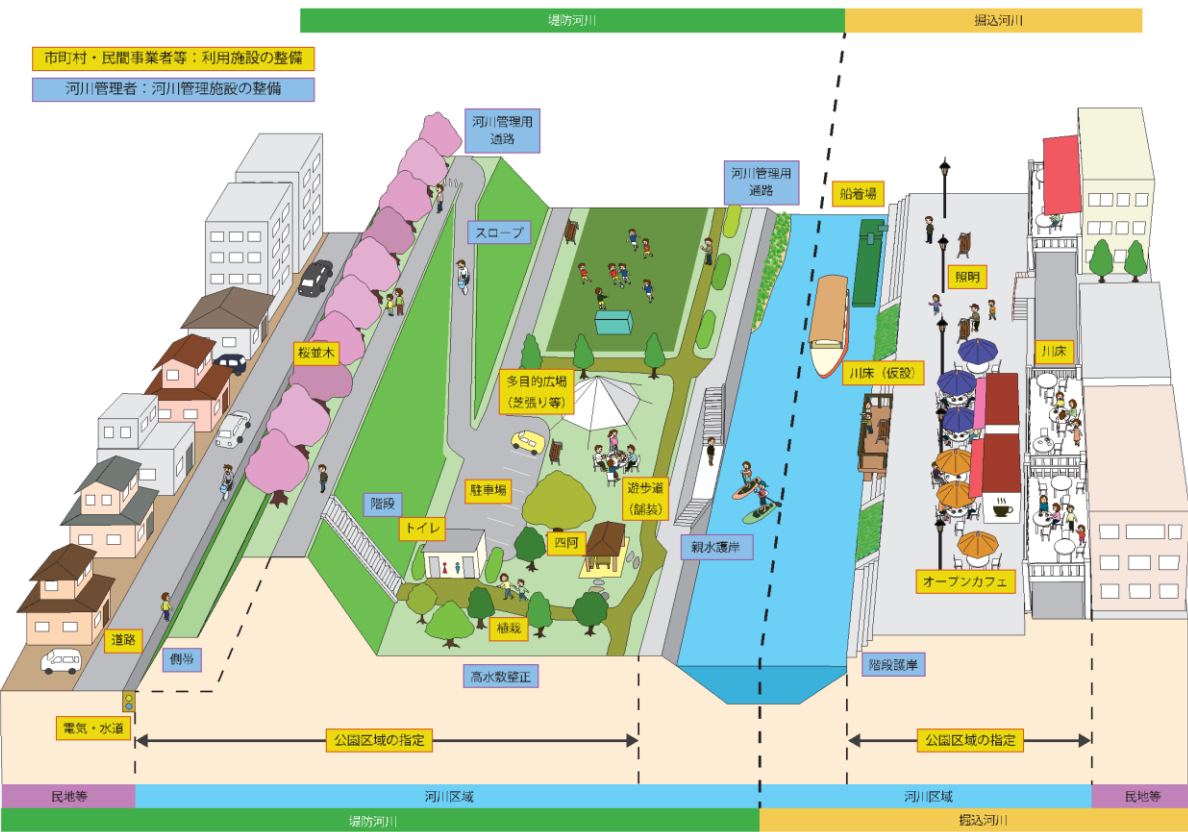
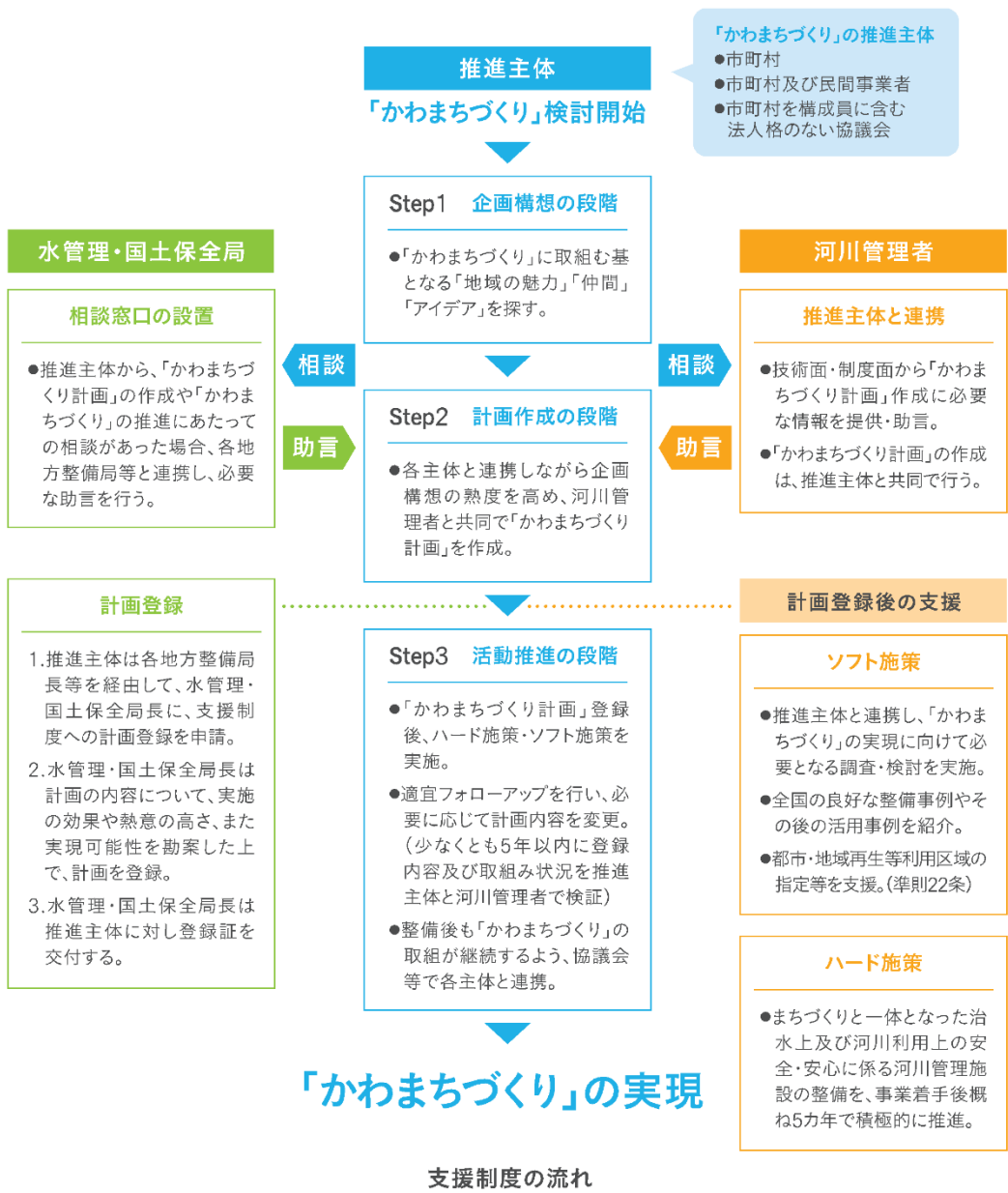
川の安全教室

かわまちづくりで実現できる風景

■「かわまちづくり」の支援制度について

「かわまちづくり」支援制度とは、地域の「かわまちづくり」の取組を河川管理者が支援する制度です。

推進主体は「かわまちづくり計画」を河川管理者と共同で作成し、河川管理者は支援制度に登録された当該計画に基づき、必要なソフト施策・ハード施策の支援を行います。



親水護岸



河川管理用通路

■「かわまちづくり」による先進事例

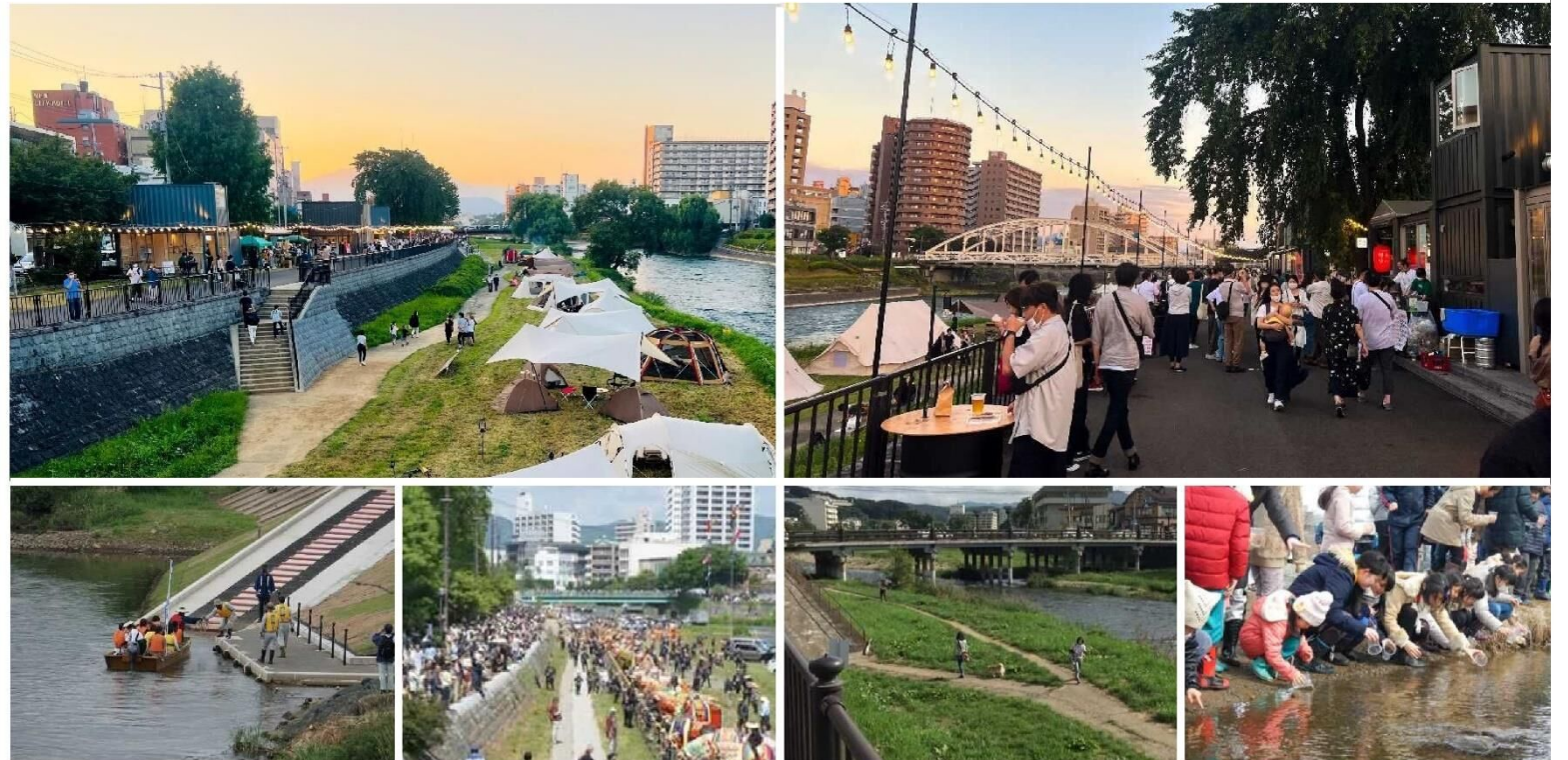
岩手県盛岡市

盛岡地区のかわづくり

中心市街地の活性化が急務となっている中で、市内中心部を流れ、歴史的に市民に親しまれており、良好な観光資源でもある北上川、中津川の河川空間を活用することで、まちなかの賑わい創出や伝統的な行事など観光振興に繋げる多くの取組を市民、地域団体、民間、国、市が連携し実施している。

河川空間の整備にあたり、地元や民間事業者等の「まちづくりの視点」を取り入れ利用者の意見を反映することにより、コロナ禍においても「水際の居場所」としての開放的な空間が確保され、多くの市民に親しまれている。

北上川に新しい船着場を活用した舟運の本格運航に向けて「かわ」と「まち」を結んだ新たな取組をしている。



宮城県石巻市

石巻地区のかわづくり

東日本大震災後の復興まちづくりとして無堤部区間への堤防整備とあわせてかわまちづくりを実施し、市街地に隣接する区間では堤防天端を拡幅し、愛称「かわまちオープンパーク」として定期的にイベントを開催し、堤防上にキッチンカーが出店する等、新たな観光・交流拠点の場となっている。

堤防に隣接する「いしのまき元気いちば」は、堤防背面に盛土と直立擁壁を設置することで、最大17m幅の「堤防一体空間」を創出しており、堤防から隣接する商業施設の2階部分に直接出入りできる。



第6章 今後の整備に向けて

(7) ロードマップ

今後の整備に向けてのロードマップを下図に示します(現時点での案であり、今後調査・協議の結果により変更することがあります)。

